

2021年6月24日 発表

子供のキャリア観と 親の働く姿に関する調査

株式会社アイDEM

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイDEM本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 望月・栗木
調査担当 / 小杉・古橋

電話 03-5269-8780

kouhousitu@aidem.co.jp

目次

	調査概要		p . 3
1	大人調査	仕事の充実度	p . 4
2	大人調査	家族揃っての食事回数	p . 5
3	大人調査	子供との会話時間	p . 6
4	子供調査	父親との会話量	p . 7
5	子供調査	母親との会話量	p . 8
6	子供調査	父親の仕事を知っているか[有職者]	p . 9
7	子供調査	母親の仕事を知っているか[有職者]	p . 10
8	子供調査	父親の働く姿を見たことがあるか	p . 11
9	子供調査	母親の働く姿を見たことがあるか	p . 12
10	子供調査	働く父親は楽しそうか	p . 13
11	子供調査	働く母親は楽しそうか	p . 14
12	子供調査	働く父親を「すごい」と思うか	p . 16
13	子供調査	働く母親を「すごい」と思うか	p . 18
14	子供調査	働く父親への憧れ	p . 20
15	子供調査	働く母親への憧れ	p . 22
16	子供調査	新型コロナウイルス感染症拡大前後での親の仕事に対する印象の変化[有職者]	p . 24
17	大人調査	新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化 [有職者]	p . 30
18	子供調査	将来働くことは楽しみか	p . 36
19	子供調査	将来なりたい職業はあるか	p . 38
20	子供調査	将来その職業になりたい理由	p . 40
21	子供調査	将来なりたい職業に就くための努力	p . 41
22	大人調査	家庭で行っているキャリア教育	p . 43
23	大人調査	親の働く姿を見せることの是非	p . 44

調査概要

調査目的	親の働く姿と子供のキャリア観への影響について調査する
調査対象	小学校5年生または6年生の子供を持つ男女で、子供と一緒にアンケート回答が可能な者
調査方法	インターネット調査
調査期間	2021年4月23日～25日
有効回答	1000名
回答者内訳と留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 本調査における「子供調査」は、回答者（大人）による代理回答である。回答者（大人）には、調査時に同席している子供に質問をし、その回答を聞いて記入するよう指示している。 調査票では、基本的に「父親」「母親」という表記をしていない。各設問においては「あなた（回答者本人）」「配偶者（回答者の配偶者）」の項目を設けて質問し、それぞれの回答を回答者の性別によって以下のように分類・再集計し、「父親」「母親」のデータを算出している。なお、配偶者については既婚の回答者のみに聞いている。 父親： [A：男性回答者における「あなた」の項目の回答] + [D：女性回答者における「配偶者」の項目の回答] 母親： [B：男性回答者における「配偶者」の項目の回答] + [C：女性回答者における「あなた」の項目の回答] 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としてしている。

大人性別	n	%
男性	561	56.1
女性	439	43.9
計	1000	100.0

大人婚姻状況	n	%
既婚	955	95.5
未婚・離別・死別	45	4.5
計	1000	100.0

父母の就労状況	n	%
共働き家庭A (父母とも正社員または自営業)	189	18.9
共働き家庭B (父母の1人以上が正社員・自営業以外の働き方)	416	41.6
専業主婦/夫 家庭 (父母のいずれかが無職)	350	35.0
シングル家庭 (父または母が有職)	45	4.5
計	1000	100.0

大人職業	男性		女性		父親		母親	
	n	%	n	%	n	%	n	%
正社員	514	91.6	67	15.3	886	91.8	186	18.8
自営業・フリーランス等の個人事業主	31	5.5	9	2.1	53	5.5	28	2.8
契約・嘱託社員	7	1.2	6	1.4	8	0.8	23	2.3
派遣社員	1	0.2	2	0.5	2	0.2	8	0.8
パート・アルバイト	2	0.4	193	44.0	5	0.5	406	41.0
無職	6	1.1	162	36.9	11	1.1	339	34.2
計	561	100.0	439	100.0	965	100.0	990	100.0

子供性別	n	%
男子	535	53.5
女子	465	46.5
計	1000	100.0

有職者の在宅勤務状況	男性		女性		父親		母親	
	n	%	n	%	n	%	n	%
在宅勤務あり	278	50.1	66	23.8	441	46.2	151	23.2
在宅勤務なし	277	49.9	211	76.2	513	53.8	500	76.8
計	555	100.0	277	100.0	954	100.0	651	100.0

● 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。

有職者の休業状況	男性		女性		父親		母親	
	n	%	n	%	n	%	n	%
休業あり	96	17.3	87	31.4	161	16.9	167	25.7
休業なし	459	82.7	190	68.6	793	83.1	484	74.3
計	555	100.0	277	100.0	954	100.0	651	100.0

● 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

仕事の充実度

小学校5-6年生の子供がいる男女に、仕事（※1）の充実度を聞いた。「充実している」20.1%、「どちらかと言えば充実している」53.6%となり、仕事が発達している男女が73.7%に上った（図1.1）。

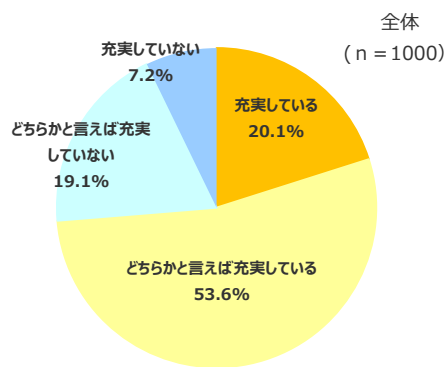
大人の性別で見ると、仕事の充実度（「充実している」+「どちらかと言えば充実している」の計/以下同）は、男性で70.8%、女性で77.5%と、女性の方が6.7ポイント高くなっている（図1.2）。

就労状況別に仕事の充実度をみると、「正社員/自営業・個人事業主」では男性が71.0%、女性が81.6%、「非正規雇用」では男性が80.0%、女性が81.6%、「無職」では男性が33.3%、女性が70.3%であった。同一の就労状況では、女性の方が充実度が高くなっている。特に「無職」に関しては、男性の場合は充実度が3割強だったのに対し、女性は7割と高くなっており、家事などの無償労働においても充実感を得ている人が多いようだ（図1.3、図1.4）。

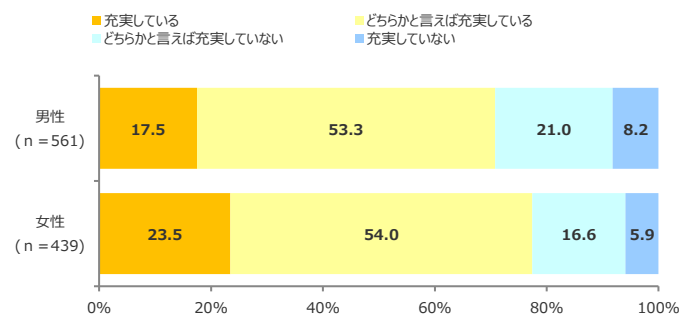
また、在宅勤務状況別にみると、男性有職者では在宅勤務の有無で仕事の充実度にほとんど差はない。しかし、女性有職者の仕事の充実度では「在宅勤務あり」が84.8%、「在宅勤務なし」が80.5%となり、4.3ポイントと若干「在宅勤務あり」の方が仕事の充実度が高かった（図1.5、図1.6）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

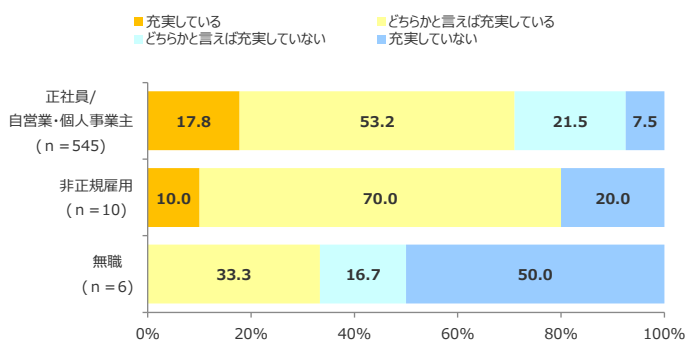
【図1.1】仕事の充実度



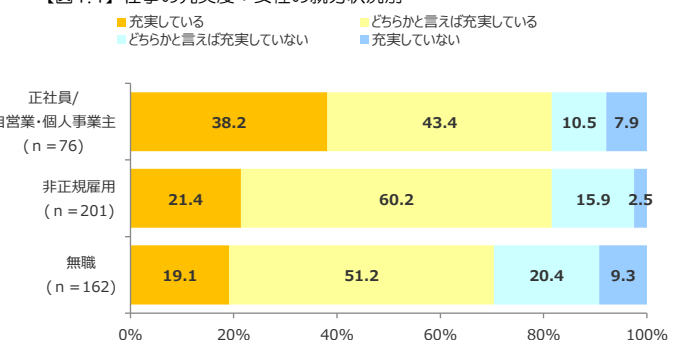
【図1.2】仕事の充実度：大人性別



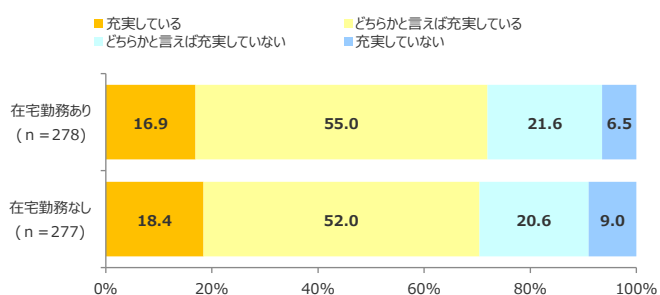
【図1.3】仕事の充実度：男性の就労状況別



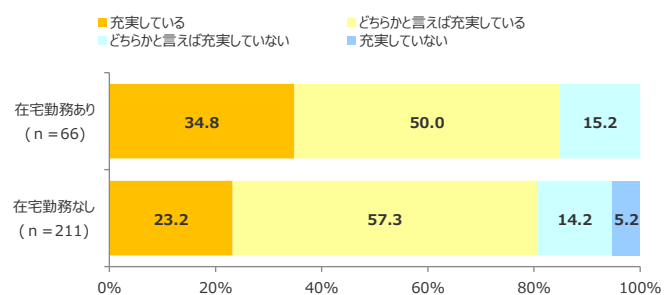
【図1.4】仕事の充実度：女性の就労状況別



【図1.5】仕事の充実度：男性有職者の在宅勤務状況別



【図1.6】仕事の充実度：女性有職者の在宅勤務状況別



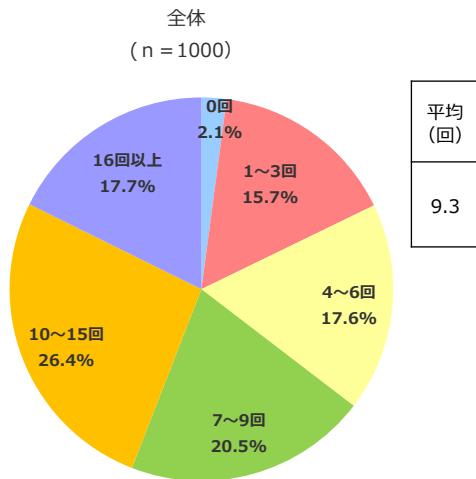
家族揃っての食事回数

小学校5-6年生の子供がいる男女に、家族が揃って食事をする機会は週何回くらいあるかを聞いた。最も多かったのは、「10～15回」で26.4%となっており、平均すると1日1～2回程度の家庭が多いようだ。一方、「0回」2.1%、「1～3回」15.7%、「4～6回」17.6%となっており、家族揃っての食事が1日1回未満という家庭も35.4%ある。また、平均は9.3回となっている（図2.1）。

家族揃っての食事が1日1回以上である「7～9回」「10～15回」「16回以上」を合わせると64.6%。これを2018年調査と比較すると、2018年は57.1%で、今回調査の方が7.5ポイント高くなった。また、平均回数も2018年は8.6回だったが、こちらも0.7回増加した結果となった（図2.2）。コロナ禍の巣ごもりなどで、家族揃っての食事回数が増えたと考えられる。

家庭状況別にみると、シングル家庭は平均12.3回と他よりも回数が多い（図2.3）。

【図2.1】 家族揃っての食事回数



【図2.2】 家族揃っての食事回数：2018年調査比較



【図2.3】 家族揃っての食事回数：家庭状況別



子供との会話時間

小学校5-6年生の子供がいる男女に、子供との会話時間（1日平均）を聞いた（※2）。

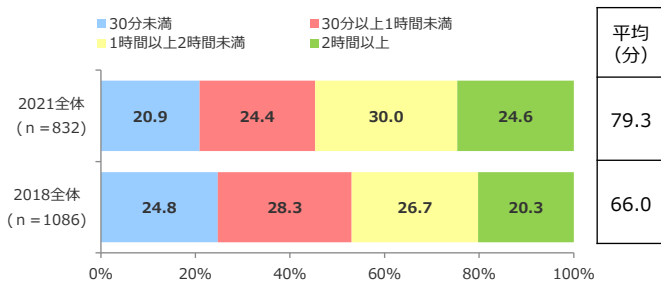
※2 有職者は「労働日（働いている日）の平均」と「休日の平均」について、無職者は「毎日の平均」について聞いている

【有職者】労働日の子供との会話時間

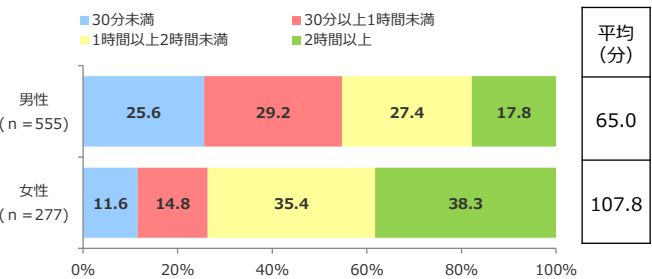
有職の男女の労働日における子供との会話時間（1日平均）を聞くと、全体では「30分未満」20.9%、「30分以上1時間未満」24.4%、「1時間以上2時間未満」30.0%、「2時間以上」24.6%で、平均は79.3分だった。2018年調査と比較すると、労働日の子供との会話時間の平均が13.3分増えている（図3.1）。

性別でみると、男性は「30分未満」25.6%、「30分以上1時間未満」29.2%と、1時間未満が54.8%であった。一方、女性は「2時間以上」が38.3%に上り、女性の方が子供と多くの時間話していた（図3.2）。

【図3.1】有職者/労働日の子供との会話時間：2018年調査比較



【図3.2】有職者/労働日の子供との会話時間：大人性別

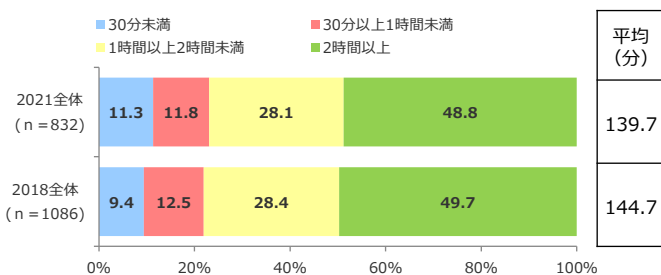


【有職者】休日の子供との会話時間

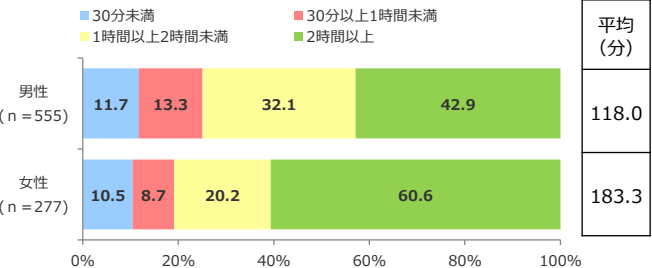
有職の男女の休日における子供との会話時間（1日平均）を聞くと、全体では「2時間以上」48.8%で最も高くなっていった。平均は139.7分だった。2018年調査と比較すると、休日の子供との会話時間の平均が5分減っている（図3.3）。

性別でみると、男女とも、「2時間以上」が最多を占めているが、女性は男性よりも17.7ポイント高くなっている。平均は、男性が118.0分なのに対し、女性は183.3分と65.3分長くなっており、子供との会話機会が圧倒的に多いことがうかがえる（図3.4）。

【図3.3】有職者/休日の子供との会話時間：2018年調査比較



【図3.4】有職者/休日の子供との会話時間：大人性別

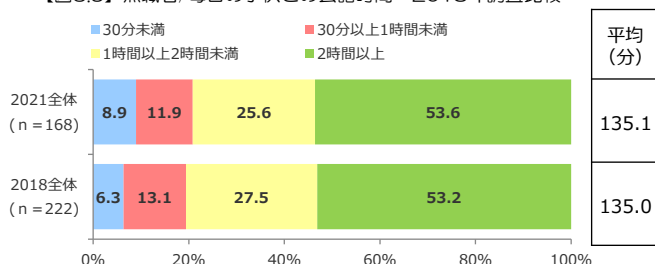


【無職者】毎日の子供との会話時間

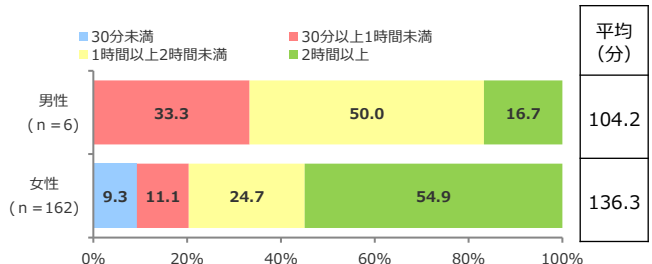
無職の男女に子供との会話時間の毎日の平均を聞くと、全体では「2時間以上」53.6%で最も高くなっていった。平均は135.1分だった。2018年調査と比較すると、平均はほぼ変わらない（図3.5）。

性別でみると、女性の方が子供との会話時間は長くなっている（図3.6）。

【図3.5】無職者/毎日の子供との会話時間：2018年調査比較



【図3.6】無職者/毎日の子供との会話時間：大人性別



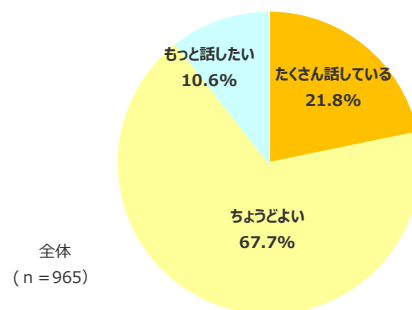
父親との会話量

小学校5-6年生の子供に、父親との会話量について聞くと、67.7%が「ちょうどよい」と回答した（図4.1）。2018年調査では「もっと話したい」が16.8%であったが、今回の調査では10.6%と6.2ポイント減少した（図4.2）。

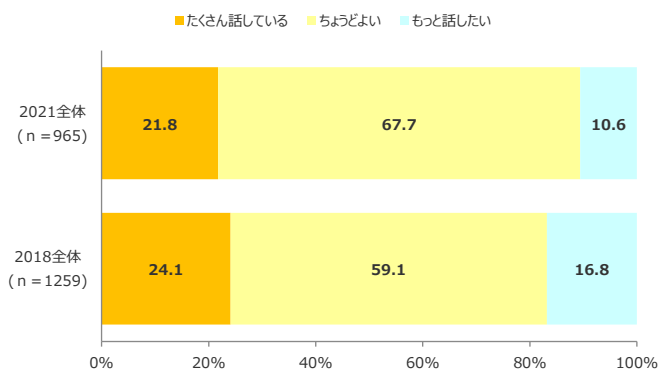
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、家族での食事回数が増えるほど「たくさん話している」と感じる子供の割合が高くなっている傾向がある（図4.3）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日でも休日でも会話時間が長い男性の子供ほど、「たくさん話している」と感じる割合が高くなっていく（図4.4、図4.5）。

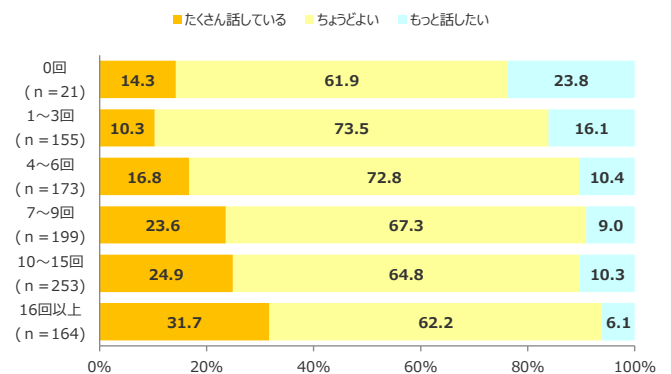
【図4.1】父親との会話量



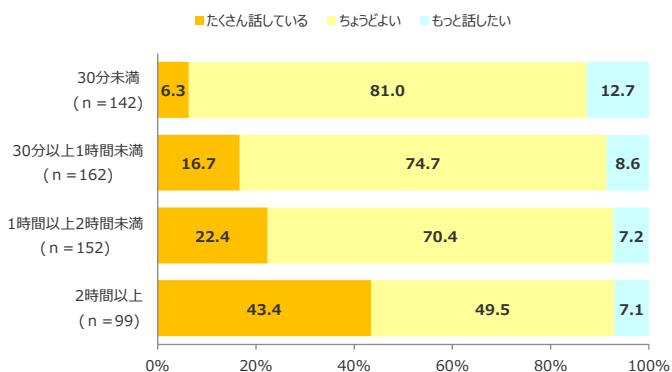
【図4.2】父親との会話量：2018年調査比較



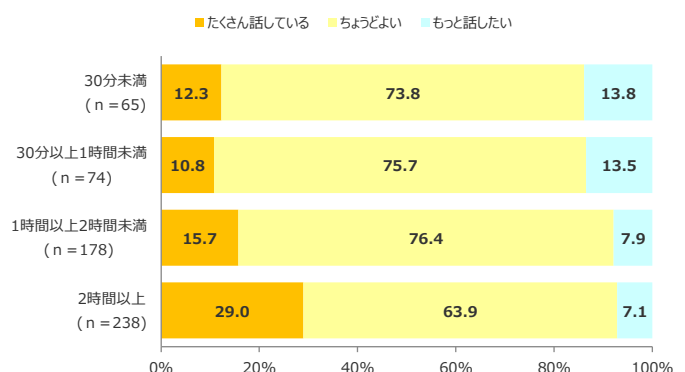
【図4.3】父親との会話量：家族揃っての食事回数別



【図4.4】父親との会話量：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図4.5】父親との会話量：男性有職者の休日の子供との会話時間別



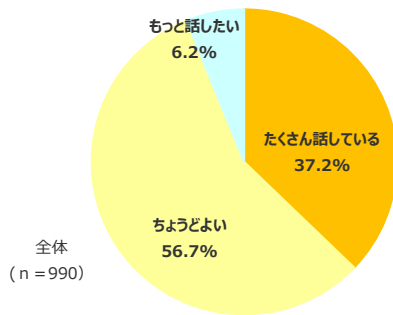
母親との会話量

小学校5-6年生の子供に、母親との会話量について聞くと、「たくさん話している」が37.2%、「ちょうどよい」56.7%となった。父親に比べて、「たくさん話している」の回答割合は15.4ポイント高い(図5.1)。2018年調査では「たくさん話している」が46.8%であったが、今回の調査では37.2%と9.6ポイント減少した(図5.2)。

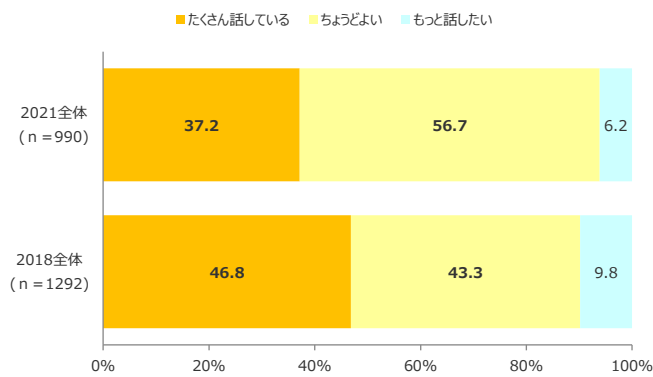
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、家族揃っての食事回数が多いほど「たくさん話している」と感じる子供の割合が高くなっていった。父親の場合とは若干異なり、食事回数が少なくても「たくさん話している」と感じている子供も一定数いる結果となった。父親と子供の会話の場合は食事場面で多く、母親と子供の場合は食事場面以外での会話も多くあることが推測される(図5.3)。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職者の場合は労働日で、無職者の場合は「30分未満」の回答を除き、毎日の会話時間が長い女性の子供ほど、子供は「たくさん話している」と感じている結果となった(図5.4、図5.5、図5.6)。

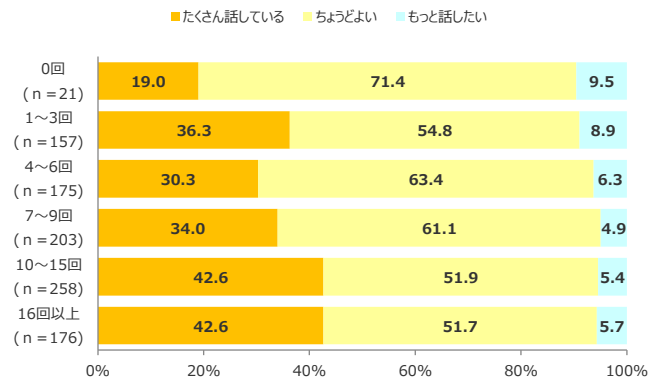
【図5.1】母親との会話量



【図5.2】母親との会話量：2018年調査比較

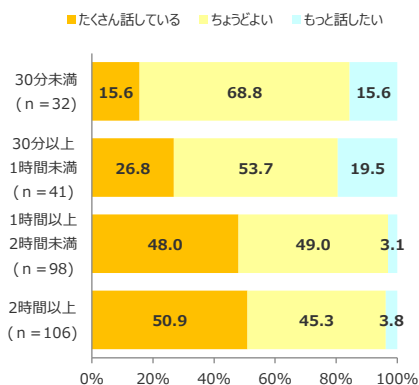


【図5.3】母親との会話量：家族揃っての食事回数別



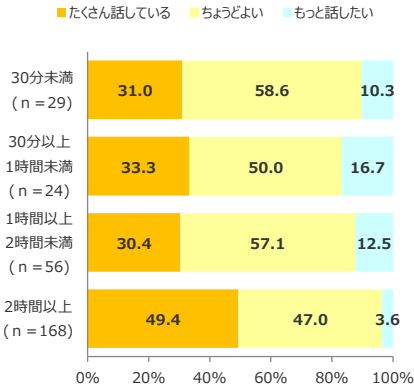
【図5.4】母親との会話量

：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



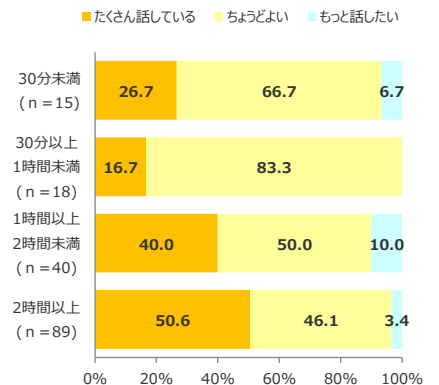
【図5.5】母親との会話量

：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図5.6】母親との会話量

：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



父親の仕事を知っているか[有職者]

小学校5-6年生の子供に父親（有職者のみ）がどのような仕事をしているか知っているかを聞いたところ、85.0%が「知っている」と回答した。2018年調査の88.0%から3ポイント低下した（図6.1）。

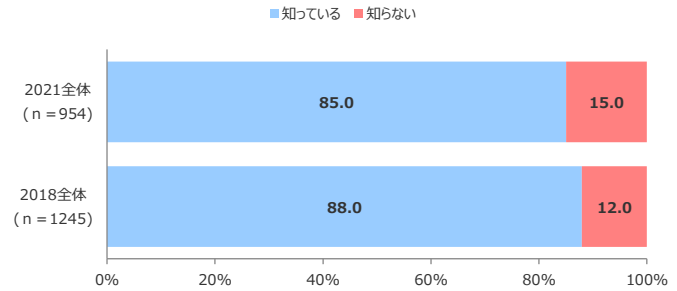
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、回数が多くなるほど「知っている」の回答割合が概ね高くなる傾向にある（図6.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日と休日の会話時間が「30分未満」の男性の子供だと、「知らない」と回答した割合がそれぞれ31.0%、30.8%と他よりも高くなっていた（図6.3、図6.4）。

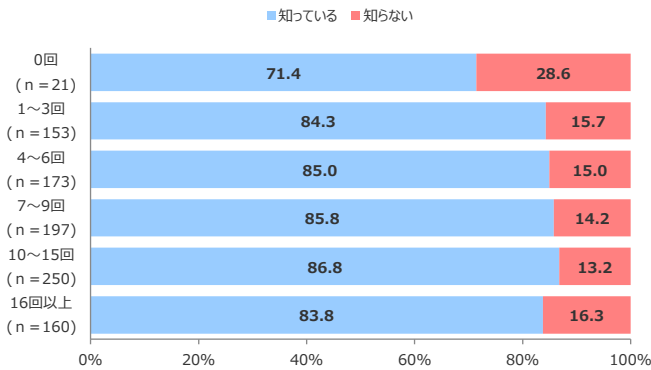
就労状況別に見ると、「知っている」は「正社員/自営業・個人事業主」の子供が85.2%、「非正規雇用」の子供が73.3%となり、11.9ポイントの差があった（図6.5）。

在宅勤務状況別では在宅勤務の有無による差はなかったが、休業状況別では、「休業あり」の父親の子供の方が「知っている」の割合が8.3ポイント高くなった（図6.6、図6.7）。

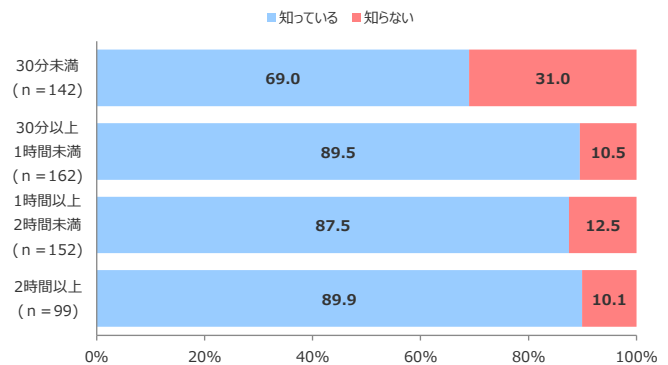
【図6.1】父親の仕事を知っているか：2018年調査比較



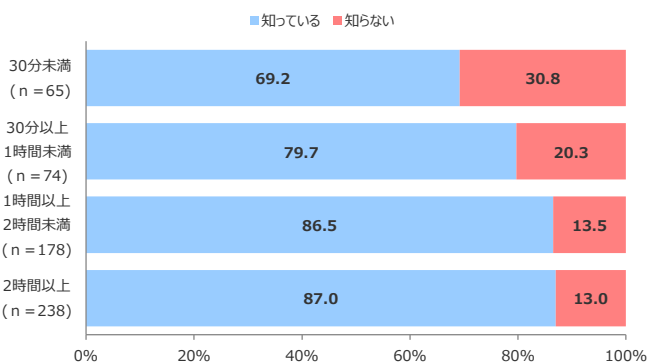
【図6.2】父親の仕事を知っているか：家族揃っての食事回数別



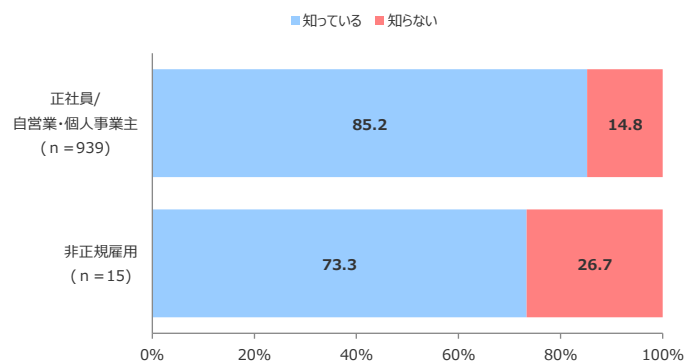
【図6.3】父親の仕事を知っているか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



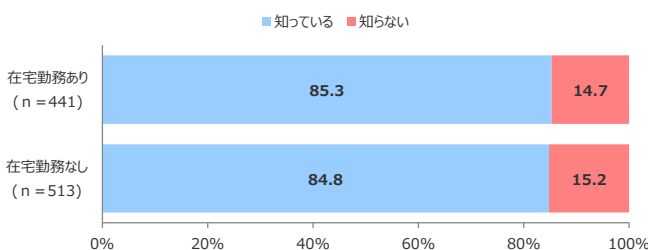
【図6.4】父親の仕事を知っているか：男性有職者の休日の子供との会話時間別



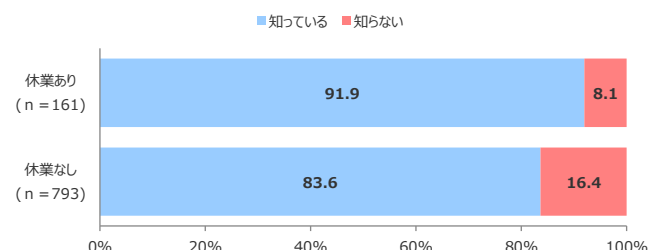
【図6.5】父親の仕事を知っているか：父親の就労状況別



【図6.6】父親の仕事を知っているか：有職の父親の在宅勤務状況別



【図6.7】父親の仕事を知っているか：有職の父親の休業状況別



母親の仕事を知っているか[有職者]

小学校5-6年生の子供に母親（有職者のみ）がどのような仕事をしているか知っているかを聞いたところ、90.5%が「知っている」と回答した。父親の仕事よりも母親の仕事の方が「知っている」と回答した子供の割合は5.5ポイント高かった。また「知っている」は、2018年調査の93.8%から3.3ポイント低下した（図7.1）。

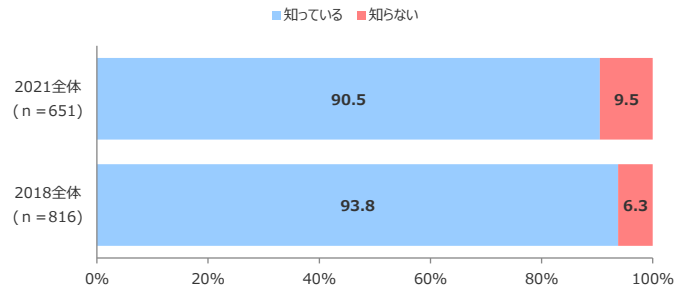
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、父親の子供では回数が多くなるほど「知っている」の回答割合が概ね高くなる傾向にあったが、母親の子供についてはその傾向は見られない（図7.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日の会話時間が「30分未満」の女性の子供では、「知らない」と回答した割合が12.5%、休日の会話時間が「30分以上1時間未満」の女性の子供では、「知らない」と回答した割合が12.5%と、それぞれ他よりも割合が高くなっていった（図7.3、図7.4）。

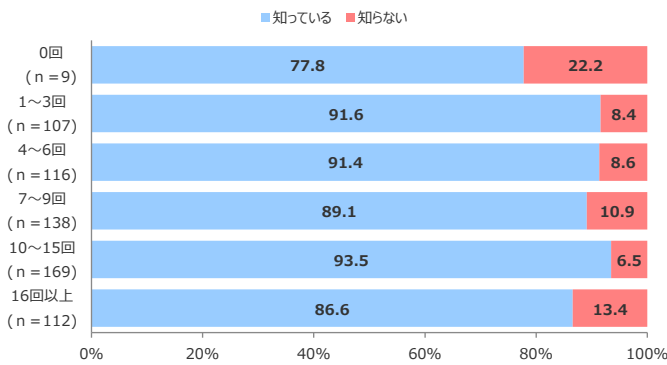
就労状況別では、大きな差はみられなかった（図7.5）。

在宅勤務状況及び休業状況別では、「知っている」は「在宅勤務あり」の母親の子供で92.7%、「休業あり」の母親の子供で95.2%と、在宅勤務や休業がない母親の子供よりも認知度は高くなった（図7.6、図7.7）。

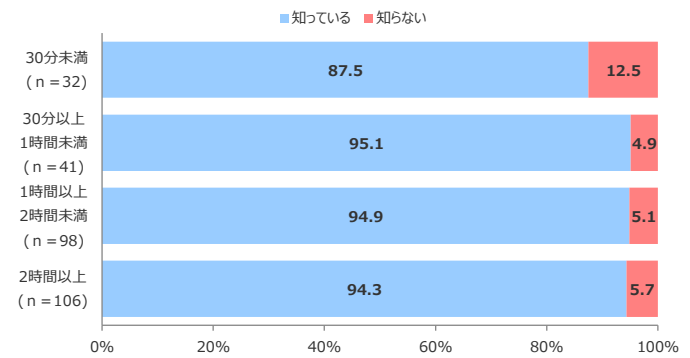
【図7.1】母親の仕事を知っているか：2018年調査比較



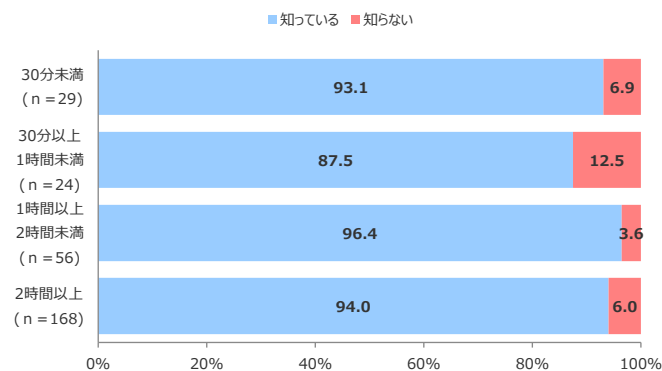
【図7.2】母親の仕事を知っているか：家族揃っての食事回数別



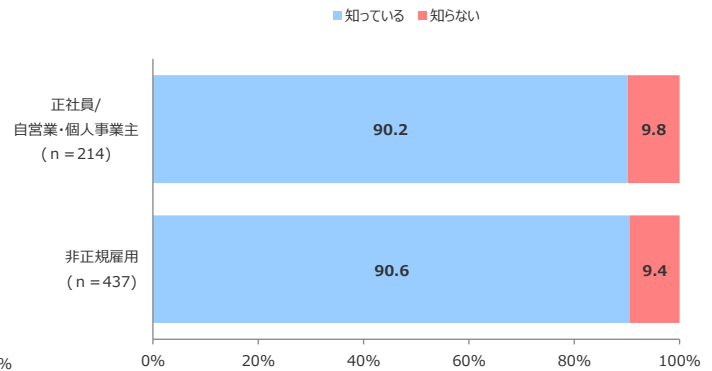
【図7.3】母親の仕事を知っているか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



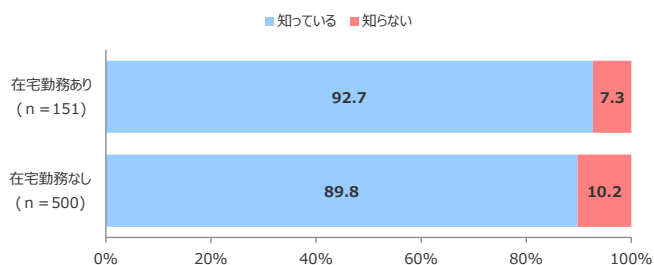
【図7.4】母親の仕事を知っているか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



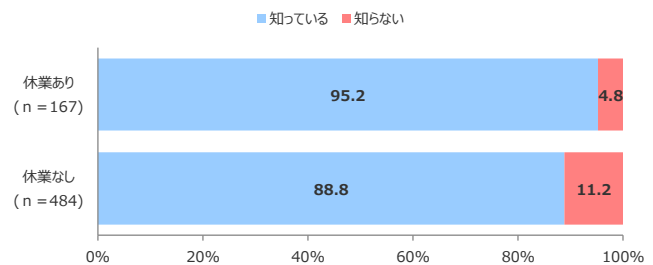
【図7.5】母親の仕事を知っているか：母親の就労状況別



【図7.6】母親の仕事を知っているか：有職の母親の在宅勤務状況別



【図7.7】母親の仕事を知っているか：有職の母親の休業状況別



父親の働く姿を見たことがあるか

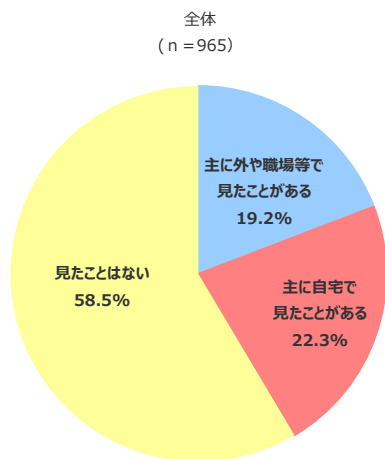
小学校5-6年生の子供に父親の働く姿(※1)を見たことがあるかを聞くと、「主に外や職場等で見たことがある」が19.2%、「主に自宅で見たことがある」が22.3%と、「見たことがある(「主に外や職場等で見たことがある」+「主に自宅で見たことがある」の計/以下同)」子供は41.5%だった(図8.1)。父親の仕事を知っている子供は9割近くに上ったが、その働く姿を実際に「見たことがある」子供は多くはないようだ。

有職者に限った場合も、大きな変化はない(図8.2)。前回2018年調査と比較すると、「見たことがある」は33.8%で、今回調査の方が7.7ポイント高くなった(図8.3)。

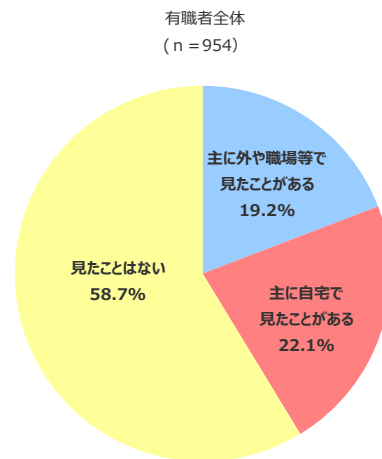
父親の在宅勤務状況別にみると、「在宅勤務あり」の父親の子供では「主に外や職場等で見たことがある」が15.2%、「主に自宅で見たことがある」が41.5%、合わせて56.7%が「見たことがある」と回答した。一方、「在宅勤務なし」の父親の子供の場合、「見たことがある」は28.1%に留まった(図8.4)。コロナ禍の影響で、在宅勤務をする父親が増えたため、父親の仕事を知っている子供が、全体を押し上げたようだ。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

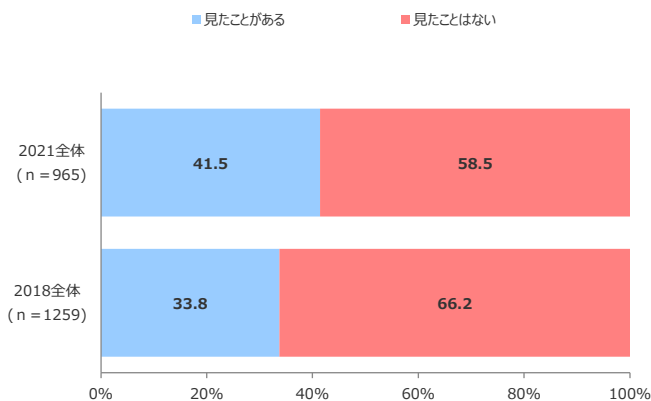
【図8.1】父親の働く姿を見たことがあるか



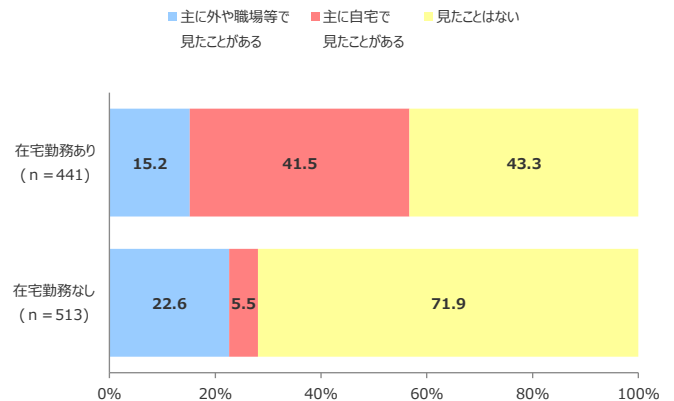
【図8.2】父親の働く姿を見たことがあるか：有職者



【図8.3】父親の働く姿を見たことがあるか：2018調査比較



【図8.4】父親の働く姿を見たことがあるか：有職の父親の在宅勤務状況別



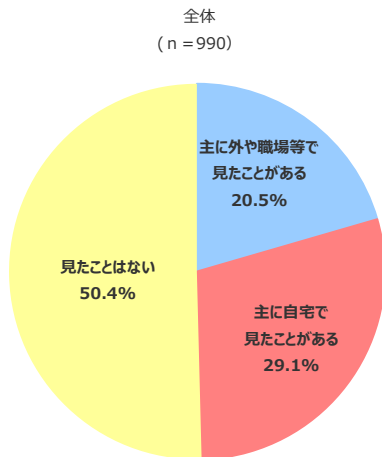
母親の働く姿を見たことがあるか

小学校5-6年生の子供に母親の働く姿(※1)を見たことがあるかを聞くと、「主に外や職場等で見たことがある」が20.5%、「主に自宅で見たことがある」が29.1%と、「見たことがある」子供は49.6%だった(図9.1)。有職者に限った場合では、「見たことがある」子供は44.1%と5.5ポイント減少する(図9.2)。2018年調査と比較すると、母親については、大きな変化はない(図9.3)。

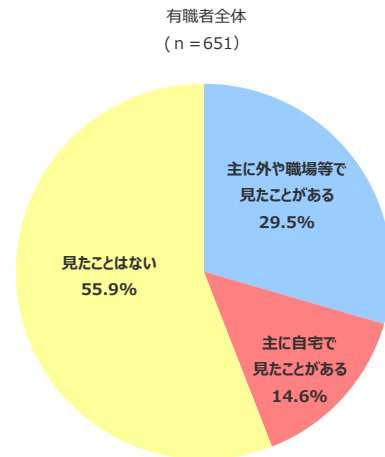
母親の在宅勤務状況別にみると、「在宅勤務あり」の母親の子供では「主に外や職場等で見たことがある」が27.2%、「主に自宅で見たことがある」が43.0%、合わせて70.2%が「見たことがある」と回答した。一方、「在宅勤務なし」の母親の子供の場合、「見たことがある」は36.2%だった(図9.4)。在宅勤務の有無によって、34.0ポイントの開きが出ていた。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

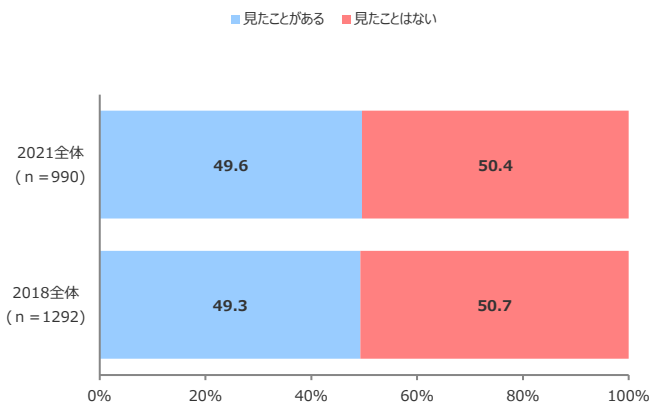
【図9.1】 母親の働く姿を見たことがあるか



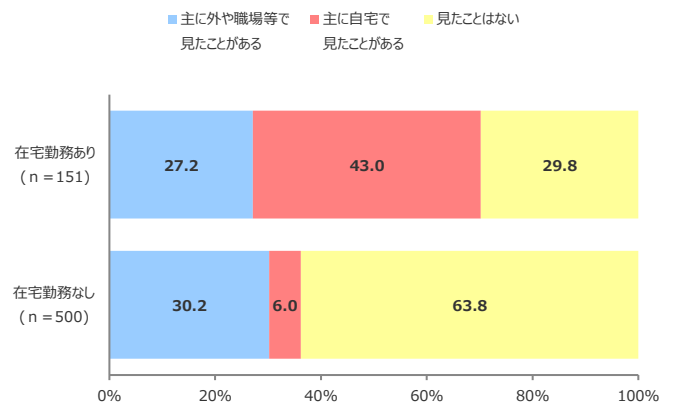
【図9.2】 母親の働く姿を見たことがあるか：有職者



【図9.3】 母親の働く姿を見たことがあるか：2018調査比較



【図9.4】 母親の働く姿を見たことがあるか：有職の母親の在宅勤務状況別



働く父親は楽しそうか

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）父親を見て楽しそうに見えるかを聞いた。

全体では、「楽しそう」12.1%、「どちらかと言えば楽しそう」29.9%となり、合わせて42.0%の子供が、働いている父親は楽しそうに見えるかと回答している。一方、「わからない」と回答した子供も32.6%いた。2018年調査と比較すると、「楽しそう（どちらかと言えば含む）」は43.9%で、今回調査の方が1.9ポイント低くなった（図10.1）。

「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、仕事が「充実している（「充実している」+「どちらかと言えば充実している」の計/以下同）」男性の家庭の子供は、「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」が計55.4%に上り、「充実していない（「充実していない」+「どちらかと言えば充実していない」の計/以下同）」家庭の3倍以上高くなっていた（図10.2）。

「大人調査：家族揃っての食事回数別」との関係を見ると、「楽しそう（どちらかと言えば含む）」は食事回数が週「10～15回」で47.5%、「4～6回」で46.3%となり、食事回数の多さとはあまり関連がないように思われる（図10.3）。

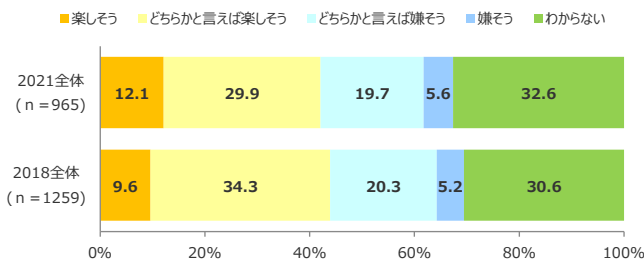
就労状況別でみると、無職の父親に対しては「楽しそう」という回答はなく、また、「わからない」が54.5%と有職の父親よりも高くなっていた（図10.4）。

在宅勤務状況別でみると、「楽しそう（どちらかと言えば含む）」は「在宅勤務あり」が44.9%で、「在宅勤務なし」の40.3%より4.6ポイント高い（図10.5）。

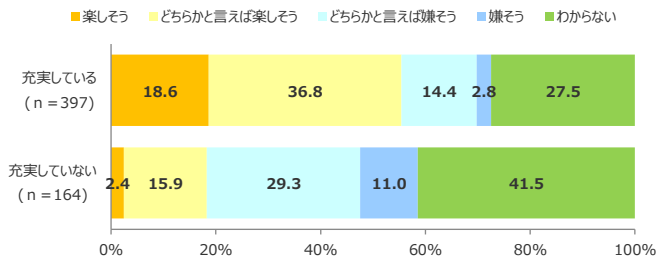
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、会話時間が長い男性有職者の子供ほど「楽しそう（どちらかと言えば含む）」の回答割合も高くなり、「わからない」という子供の割合も低くなっていた（図10.6）。子供たちは、日頃のコミュニケーションを通じて、父親の仕事の様子を感じ取っているのかもしれない。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている。

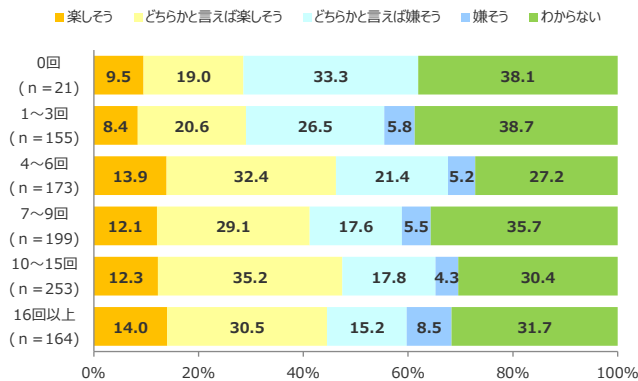
【図10.1】働く父親は楽しそうか：2018年調査比較



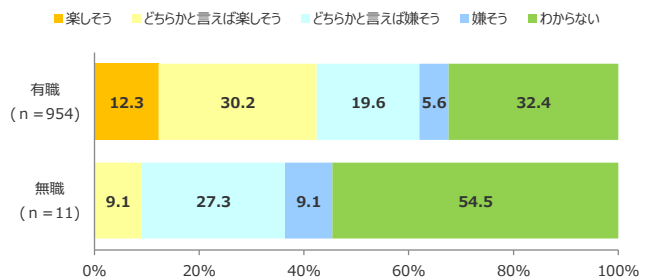
【図10.2】働く父親は楽しそうか：男性の仕事の充実度別



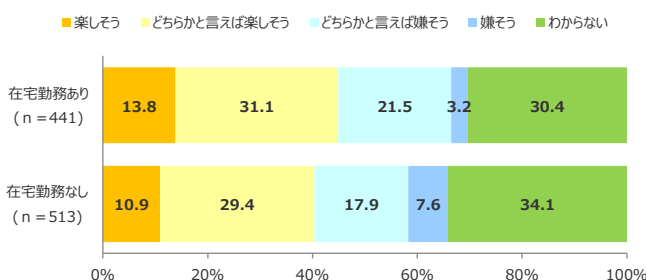
【図10.3】働く父親は楽しそうか：家族揃っての食事回数別



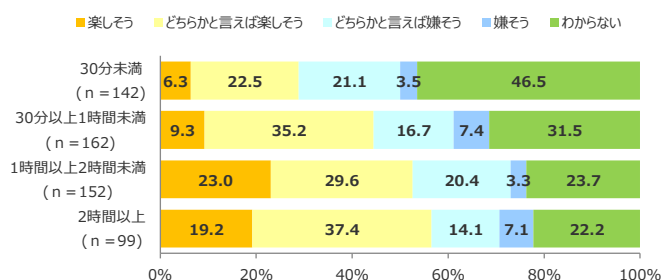
【図10.4】働く父親は楽しそうか：父親の就労状況別



【図10.5】働く父親は楽しそうか：有職の父親の在宅勤務状況別



【図10.6】働く父親は楽しそうか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



働く母親は楽しそうか

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）母親を見て楽しそうに見えるかを聞いた。

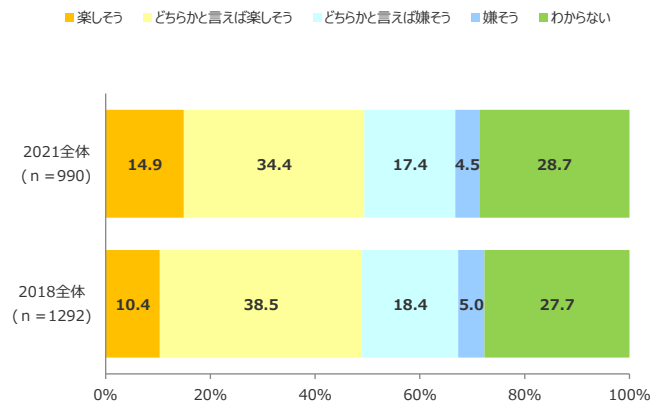
全体では、「楽しそう」14.9%、「どちらかと言えば楽しそう」34.4%となり、合わせて49.3%の子供が働く母親が楽しそうに見えると回答した。父親に対してよりも7.3ポイント高い。一方、「わからない」と回答した子供も28.7%いた。2018年調査と比較すると、「楽しそう（どちらかと言えば含む）」は48.9%で、今回調査の方が0.4ポイント高くなった（図11.1）。

「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、仕事が「充実している」女性の家庭の子供は、「楽しそう（どちらかと言えば含む）」が60.9%に上り、「充実していない」家庭の2倍以上高くなっていた（図11.2）。

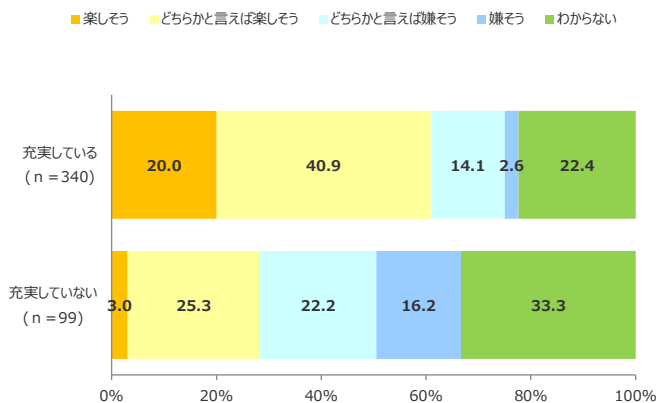
「大人調査：家族揃っての食事回数別」との関係を見ると、「楽しそう（どちらかと言えば含む）」の回答割合は、食事回数が週「10～15回」で57.4%、「4～6回」で50.3%となり、食事回数の多さとはあまり関連がないように思われる（図11.3）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

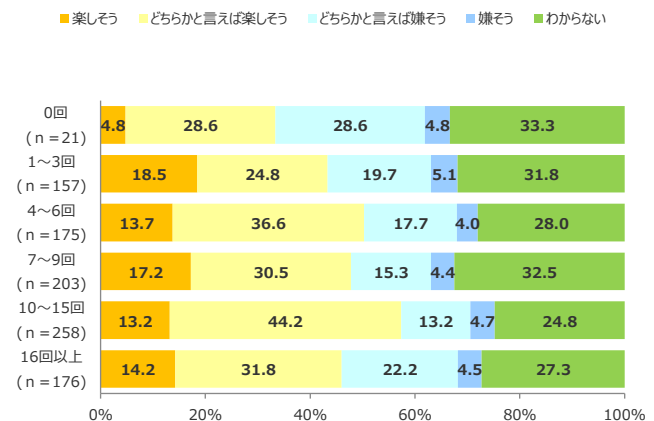
【図11.1】働く母親は楽しそうか：2018年調査比較



【図11.2】働く母親は楽しそうか：女性の仕事の充実度別



【図11.3】働く母親は楽しそうか：家族揃っての食事回数別

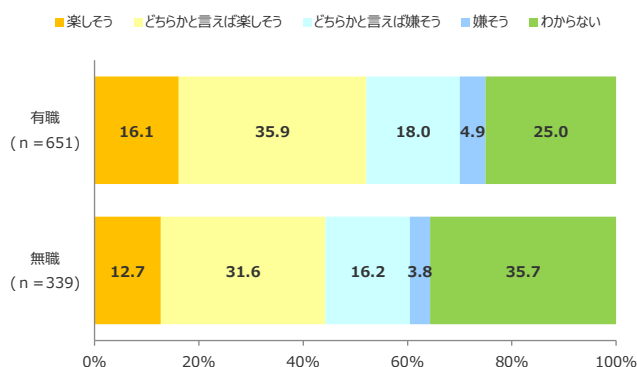


就労状況別でみると、有職の母親に対しては「楽しそう」16.1%、「どちらかと言えば楽しそう」35.9%となり、合わせて52.0%の子供が、働いている母親は楽しそうに見えると回答している。無職の母親の「楽しそう（どちらかと言えば含む）」44.3%より7.7ポイント、有職の父親の42.5%より9.5ポイント高くなっていた（図11.4）。

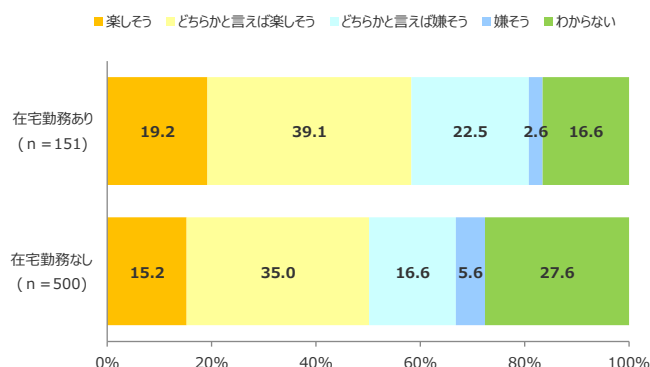
在宅勤務状況別でみると、「楽しそう（どちらかと言えば含む）」は「在宅勤務あり」が58.3%で、「在宅勤務なし」の50.2%より8.1ポイント高い（図11.5）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、女性有職者では、労働日の子供との会話時間が長いほど、子供が「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」と感じている割合が高くなる。一方、労働日および休日の会話時間が「30分未満」の女性有職者の子供では「わからない」の回答が高くなっていた。また、無職者の場合は、有職者に比べて「わからない」の回答割合が高いのも特徴的である（図11.6、図11.7、図11.8）。

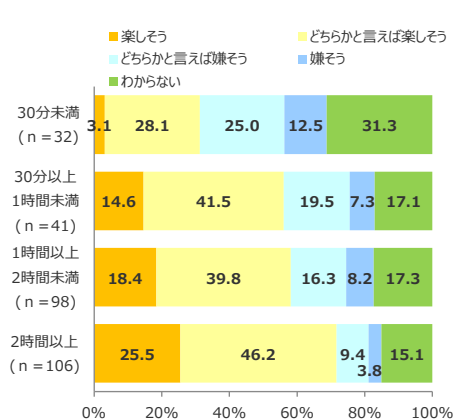
【図11.4】働く母親は楽しそうか：母親の就労状況別



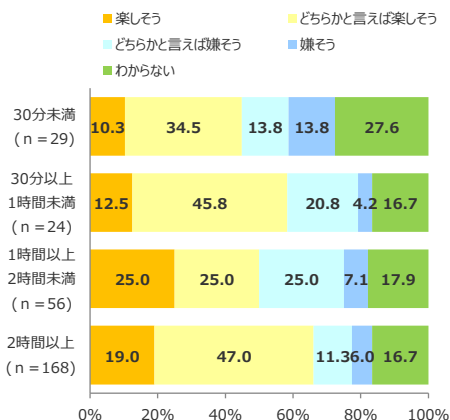
【図11.5】働く母親は楽しそうか：有職の母親の在宅勤務状況別



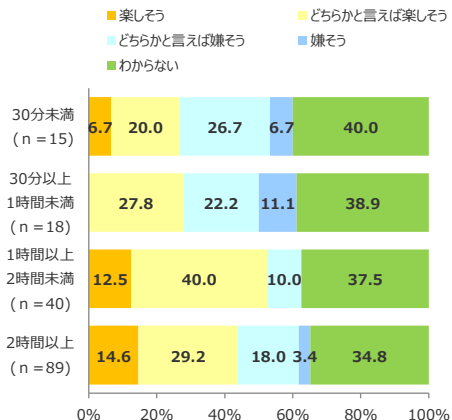
【図11.6】働く母親は楽しそうか
：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図11.7】働く母親は楽しそうか
：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図11.8】働く母親は楽しそうか
：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く父親を「すごい」と思うか

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）父親を見てすごいと思うかを聞いた。全体では「すごい」30.9%、「どちらかと言えばすごい」41.5%となり、合わせて72.4%の子供が働く父親をすごいと感じている。一方、「わからない」と回答した子供も18.0%いた。2018年調査と比較しても、大きな変化はない（図12.1）。

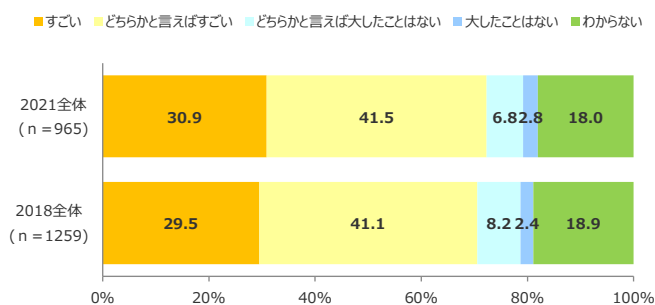
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親の仕事を「見たことがある」家庭の子供は、「すごい」が39.8%と、「見たことはない」家庭より15.2ポイント高く、すごさを感じているようだ（図12.2）。

「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、仕事が「充実している」男性の子供は、「すごい」が28.0%と、「充実していない」男性の子供より9.7ポイント高くなっていた（図12.3）。

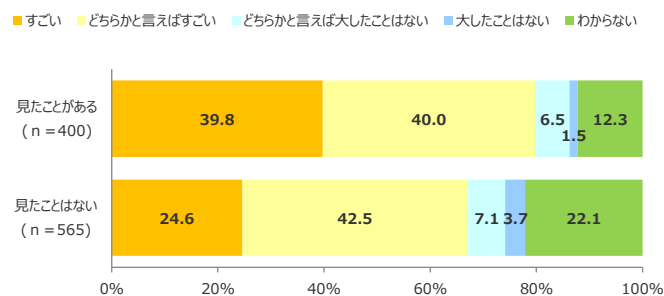
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、概ね食事回数が増えるほど父親を「すごい」と思う割合が上がり、反対に「わからない」は下がっていく傾向があった（図12.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

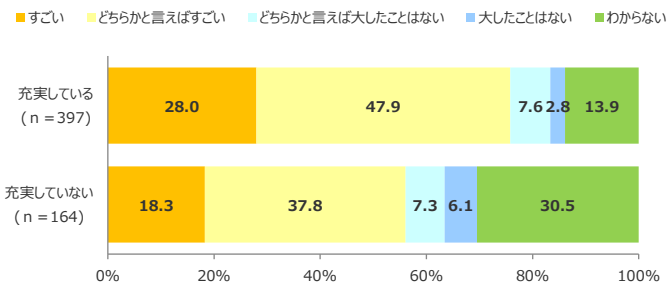
【図12.1】働いている父親を「すごい」と思うか：2018年調査比較



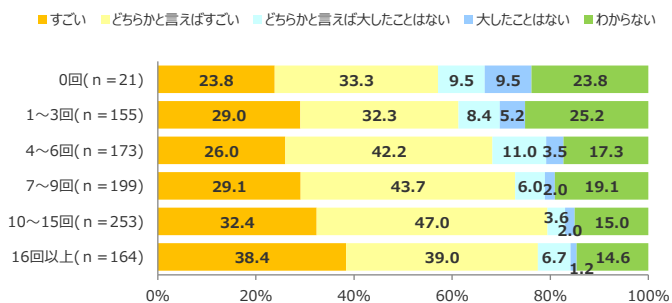
【図12.2】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



【図12.3】働いている父親を「すごい」と思うか：男性の仕事の充実度別



【図12.4】働いている父親を「すごい」と思うか：家族揃っての食事回数別



就労状況別にみると、「正社員/自営業・個人事業主」「無職」「非正規雇用」の順に「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値は高い。一方「わからない」は「無職」「非正規雇用」「正社員/自営業・個人事業主」の順に高くなっている（図12.5）。

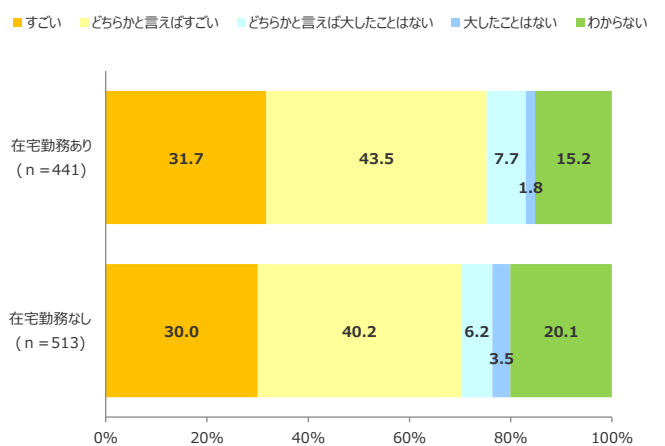
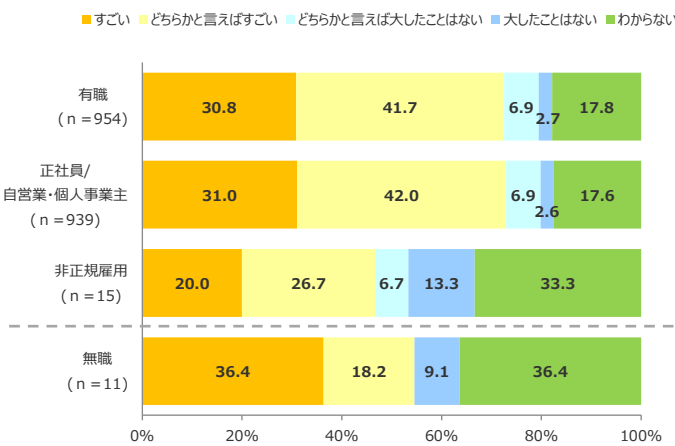
在宅勤務状況別でみると、「すごい（どちらかと言えば含む）」は「在宅勤務あり」が75.2%で、「在宅勤務なし」の70.2%より5.0ポイント高い（図12.6）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の男性の場合、労働日でも休日でも「2時間以上」子供と会話していると、子供は父親のことを「すごい」と感じている割合が高くなる（図12.7、図12.8）。

食事や会話の中で子供は父親の働く姿を想像し、それが尊敬につながっているのかもしれない。

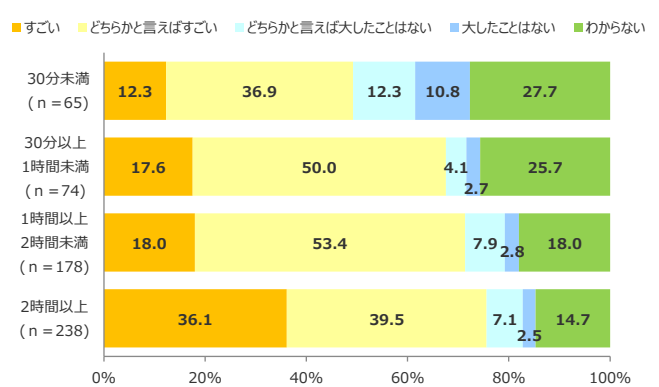
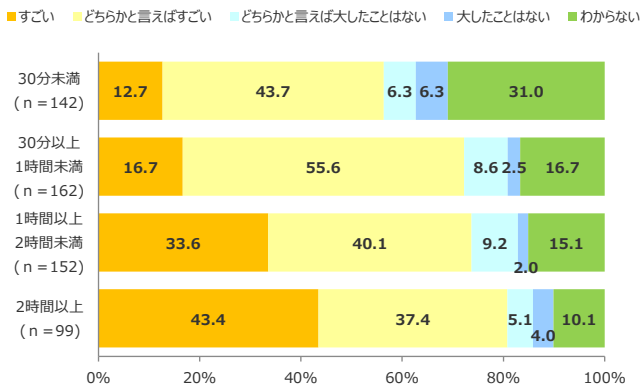
【図12.5】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の就労状況別

【図12.6】働いている父親を「すごい」と思うか：有職の父親の在宅勤務状況別



【図12.7】働いている父親を「すごい」と思うか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別

【図12.8】働いている父親を「すごい」と思うか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別



働く母親を「すごい」と思うか

小学校5-6年生の子供に、働いている(※1)母親を見てすごいと思うかを聞いた。「すごい」25.4%、「どちらかと言えばすごい」43.9%となり、合わせて69.3%の子供が母親をすごいと感じている。父親と比べると、3.1ポイント低い。2018年調査と比較しても、大きな変化はない(図13.1)。

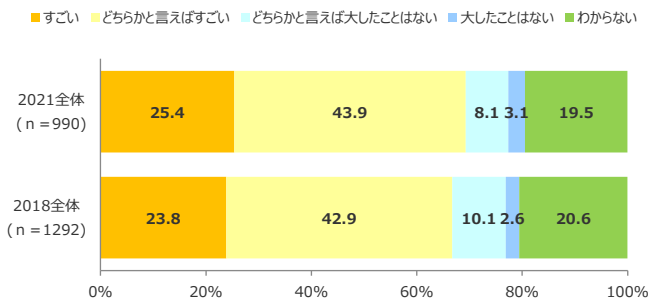
「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、母親の仕事を「見たことがある」家庭の子供は、「すごい」32.8%、「どちらかと言えばすごい」46.8%となり、「見たことはない」家庭に比べてそれぞれ14.8ポイント、5.7ポイント高くなっていた(図13.2)。

「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、仕事が「充実している」女性の子供は、「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計が70.6%となり、「充実していない」家庭よりも8.0ポイント高くなっていた(図13.3)。

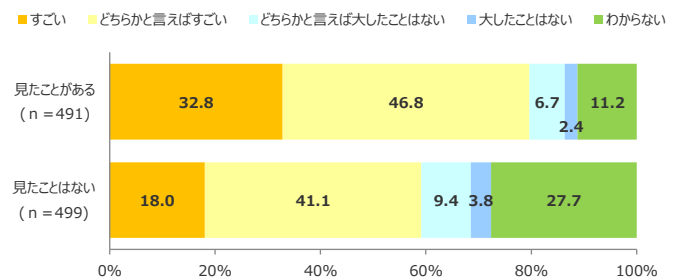
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、概ね食事回数が増えるほど母親を「すごい(どちらかと言えば含む)」と思う割合が上がっていく傾向があった(図13.4)。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

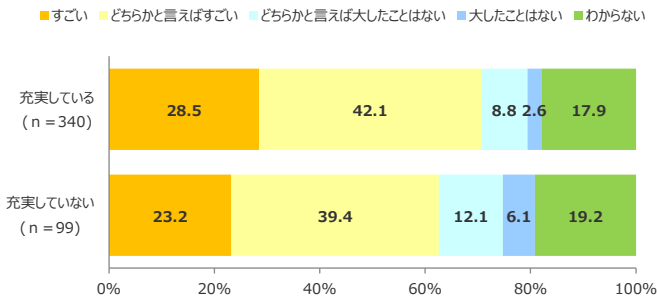
【図13.1】働いている母親を「すごい」と思うか：2018年調査比較



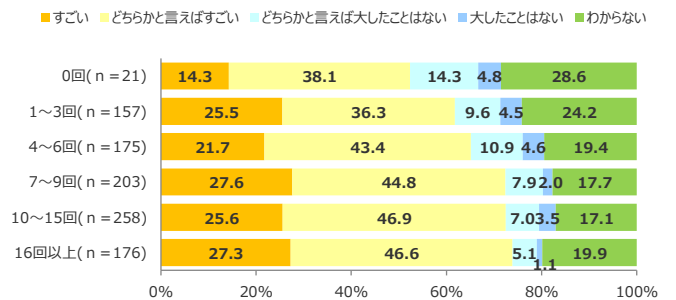
【図13.2】働いている母親を「すごい」と思うか：母親の働く姿(無職者も含む)を見たことがあるか別



【図13.3】働いている母親を「すごい」と思うか：女性の仕事の充実度別



【図13.4】働いている母親を「すごい」と思うか：家族揃っての食事回数別



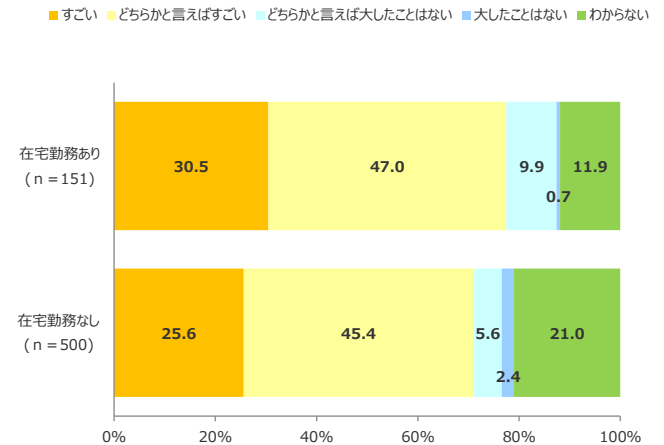
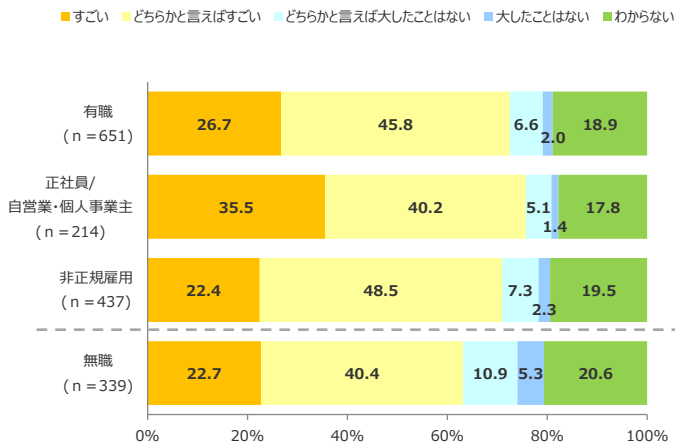
就労状況別に見ると、「正社員/自営業・個人事業主」「非正規雇用」「無職」の順に、「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値は高く、その反対に「どちらかと言えば大したことはない」「大したことはない」の回答割合は減少していく（図13.5）。

在宅勤務状況別で見ると、「すごい（どちらかと言えば含む）」は「在宅勤務あり」が77.5%で、「在宅勤務なし」の71.0%より6.5ポイント高い（図13.6）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の女性の場合、労働日でも休日でも「1時間以上」子供と会話していると、子供は母親のことを「すごい」と感じている割合が3割を超えて高くなる。無職の女性の場合はそのような傾向はみられなかった（図13.7、図13.8、図13.9）。

【図13.5】働いている母親を「すごい」と思うか：母親の就労状況別

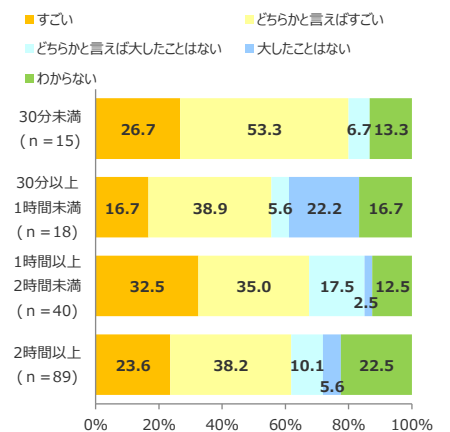
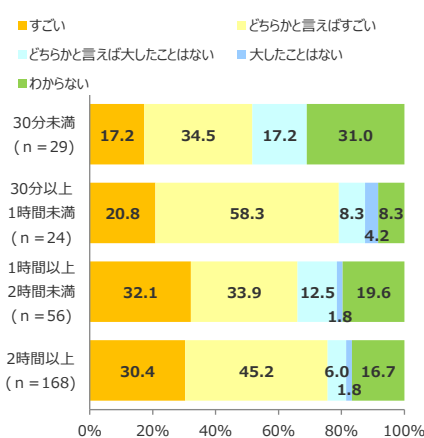
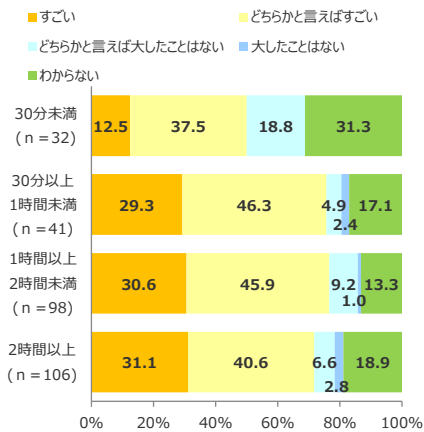
【図13.6】働いている母親を「すごい」と思うか：有職の母親の在宅勤務状況別



【図13.7】働いている母親を「すごい」と思うか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別

【図13.8】働いている母親を「すごい」と思うか：女性有職者の休日の子供との会話時間別

【図13.9】働いている母親を「すごい」と思うか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く父親への憧れ

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）父親を見てどのように感じているかを聞いた。父親に対して、「あんな大人になりたい・計（「どちらかと言えばなりたい」も含む、以下同）」と憧れを持っている割合は、53.8%に上った。2018年調査と比較すると、今回調査の方が5.6ポイント高くなった（図14.1）。

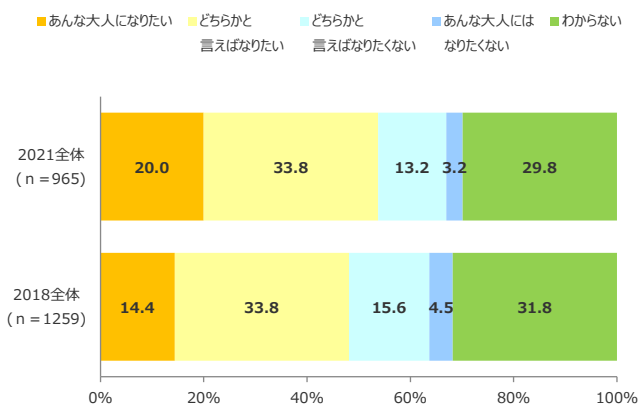
子供の性別で見ると、女子よりも男子の方が「あんな大人になりたい・計」の割合が若干高い（図14.2）。

「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親の働く姿を「見たことがある」子供は、「あんな大人になりたい・計」が60.1%となり、「見たことがない」子供よりも10.7ポイント高くなっていた。さらに、「わからない」という曖昧な回答者の割合も低い（図14.3）。

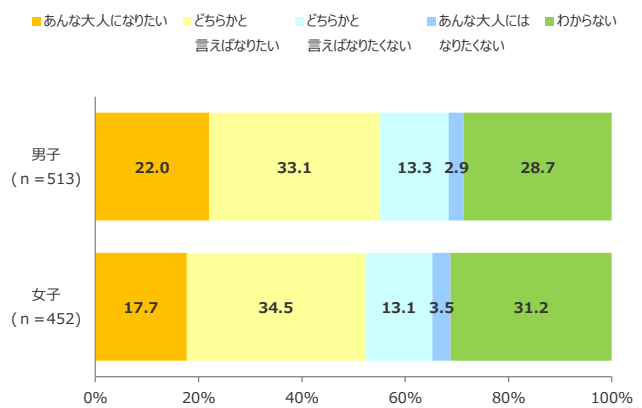
「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、仕事が「充実している」男性の子供は、「あんな大人になりたい・計」が62.0%と、「充実していない」男性の子供よりも2倍近く高くなっていた（図14.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

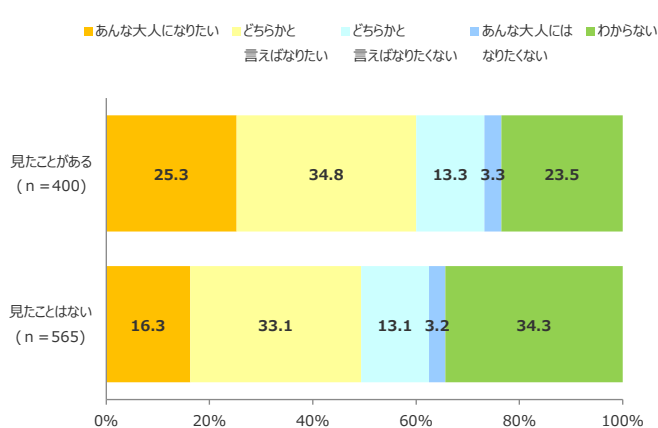
【図14.1】働いている父親を見てどのように感じているか
：2018年調査比較



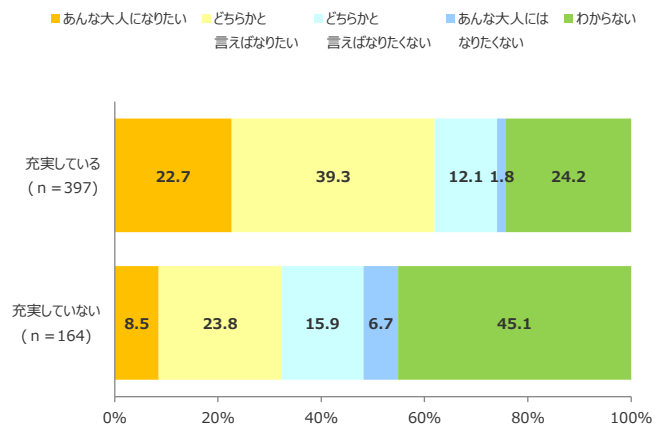
【図14.2】働いている父親を見てどのように感じているか
：子供性別



【図14.3】働いている父親を見てどのように感じているか
：父親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



【図14.4】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性の仕事の充実度別



「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど、「あんな大人になりたい・計」は高くなる傾向にある。「わからない」の回答割合も、食事回数が高くなるほど低くなる（図14.5）。

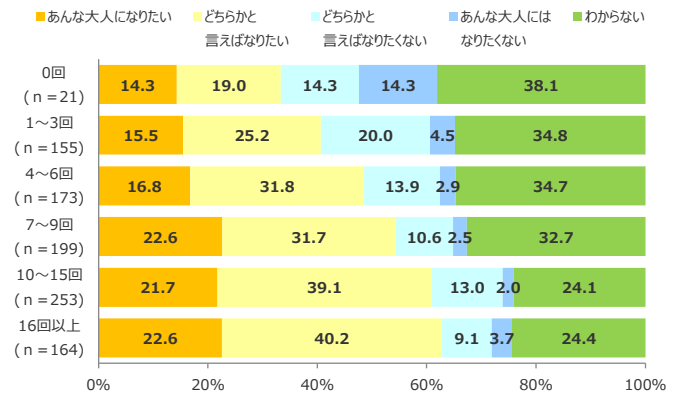
就労状況別にみると、「あんな大人になりたい・計」は、「正社員/自営業・個人事業主」では54.5%、「非正規雇用」では33.4%、「無職」では18.2%となっている（図14.6）。

在宅勤務状況別でみると、「あんな大人になりたい・計」は、「在宅勤務あり」が58.7%で、「在宅勤務なし」の50.3%より8.4ポイント高い（図14.7）。

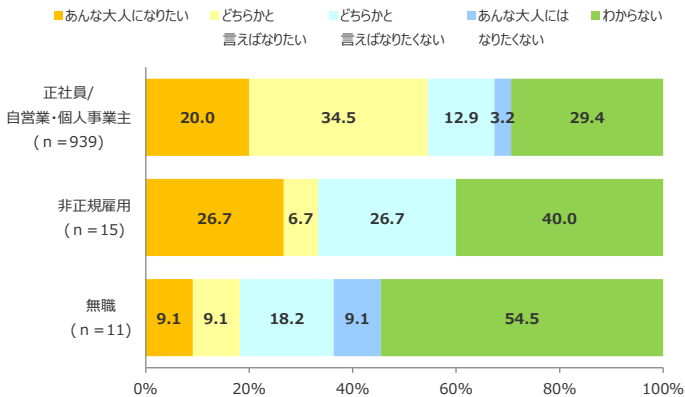
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の男性で子供との会話時間が長くなるほど、子供は「あんな大人になりたい・計」が高くなる傾向がある（図14.8、図14.9）。

食事や会話など父親と過ごす時間が多いことで、父親の仕事や考えに触れる機会が増え、憧れにつながっているように思われる。

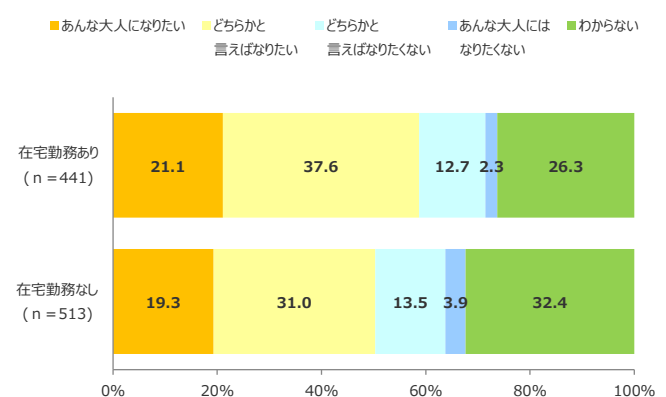
【図14.5】働いている父親を見てどのように感じているか
：家族揃っての食事回数別



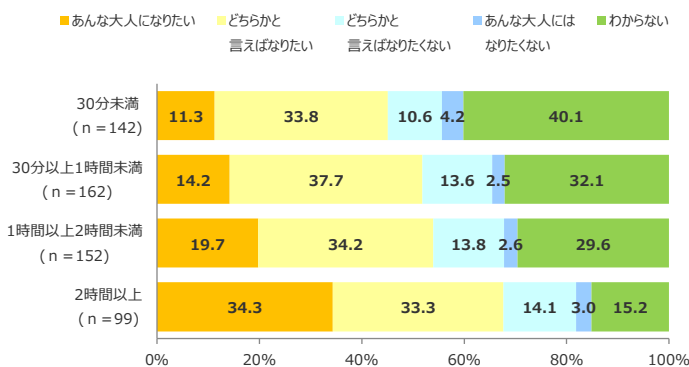
【図14.6】働いている父親を見てどのように感じているか
：父親の就労状況別



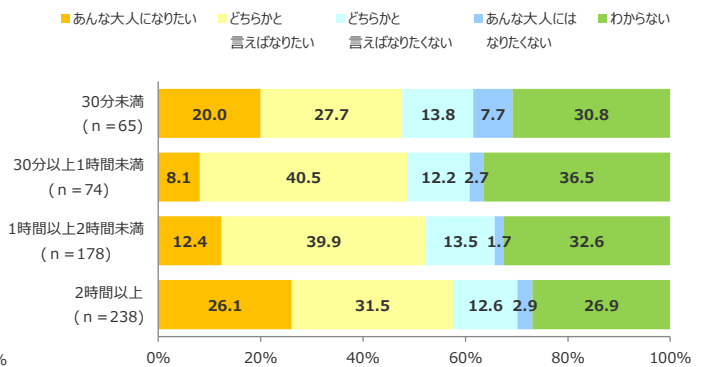
【図14.7】働いている父親を見てどのように感じているか
：有職の父親の在宅勤務状況別



【図14.8】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図14.9】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別



働く母親への憧れ

小学校5-6年生の子供に、働いている（※1）母親を見てどのように感じているかを聞いた。

母親に対して、「あんな大人になりたい・計」と憧れを持っている割合は、55.0%に上った。2018年調査と比較すると、今回調査の方が6.2ポイント高くなった（図15.1）。

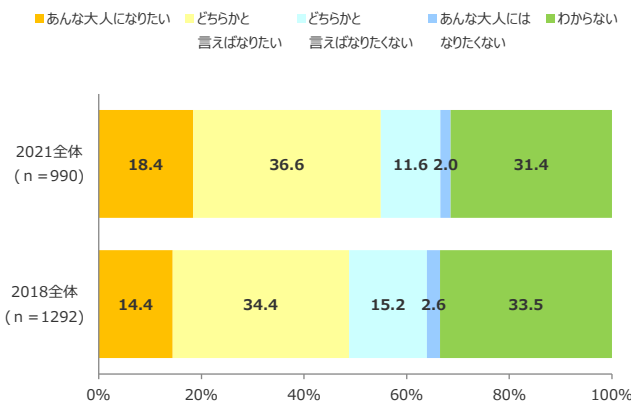
子供の性別でみると、男子よりも女子の方が「あんな大人になりたい・計」の割合が高い。父親に対する「あんな大人になりたい」の回答割合の男女差が2.9ポイントだったのに対し、母親の同項目の男女差は8.6ポイントと大きくなっており、男子の父親に対する憧れよりも、女子の母親に対する憧れの方が若干強くなっていた（図15.2）。

「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、母親の働く姿を「見たことがある」子供は、「あんな大人になりたい・計」が63.3%となり、「見たことがない」子供よりも16.6ポイント高くなっていた。父親に対する結果と同様に、「わからない」の回答割合も低くなっていた（図15.3）。

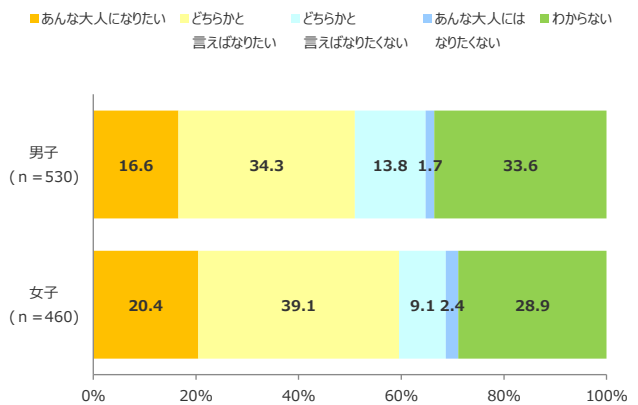
「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、仕事が「充実している」女性の子供は、「あんな大人になりたい・計」が57.6%と、「充実していない」女性の子供よりも17.2ポイント高くなっていた（図15.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

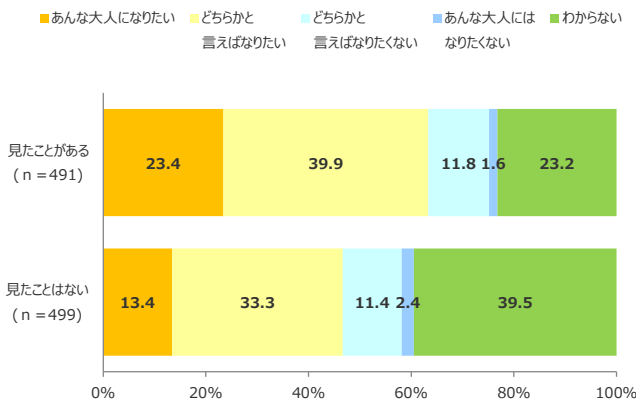
【図15.1】働いている母親を見てどのように感じているか
：2018年調査比較



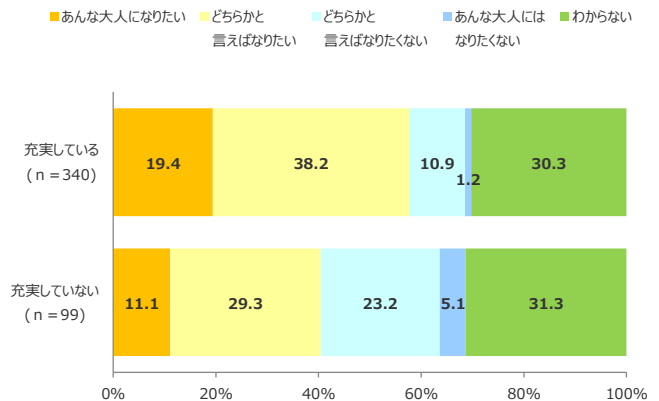
【図15.2】働いている母親を見てどのように感じているか
：子供性別



【図15.3】働いている母親を見てどのように感じているか
：母親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



【図15.4】働いている母親を見てどのように感じているか
：女性の仕事の充実度別



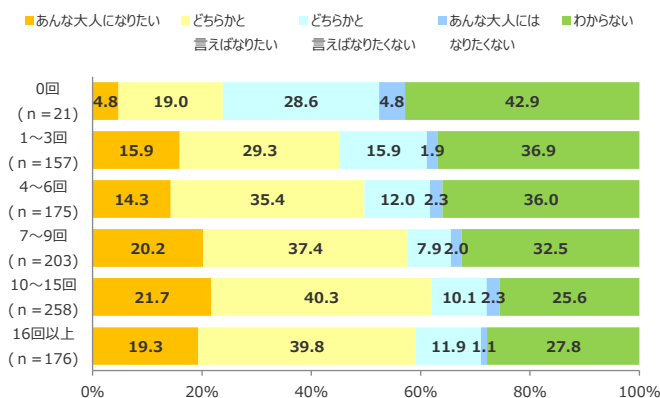
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、父親と同様に食事回数が増えるほど、「あんな大人になりたい・計」は概ね高くなる傾向にあった（図15.5）。

就労状況別みると、「あんな大人になりたい・計」は、「正社員/自営業・個人事業主」では61.7%、「非正規雇用」では54.7%、「無職」では51.0%となっている（図15.6）。

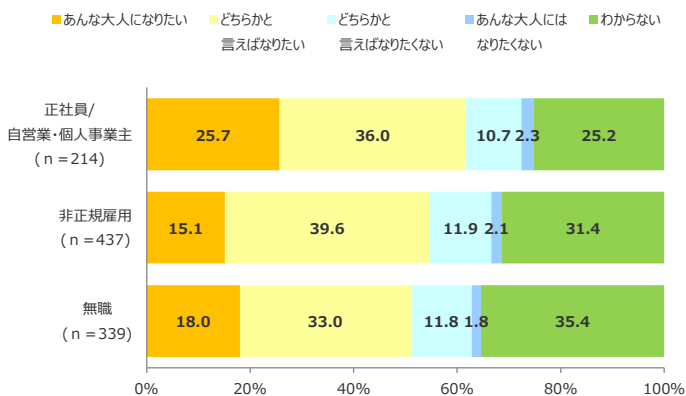
在宅勤務状況別で見ると、「あんな大人になりたい・計」は、「在宅勤務あり」が65.6%で、「在宅勤務なし」の54.4%より11.2ポイント高い（図15.7）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、「あんな大人になりたい・計」という回答は、子供との会話時間が「30分未満」だと、30分以上の会話時間に比べて割合が低くなっている。会話時間が短いと、憧れは抱きづらいようだ。（図15.8、図15.9、図15.10）。

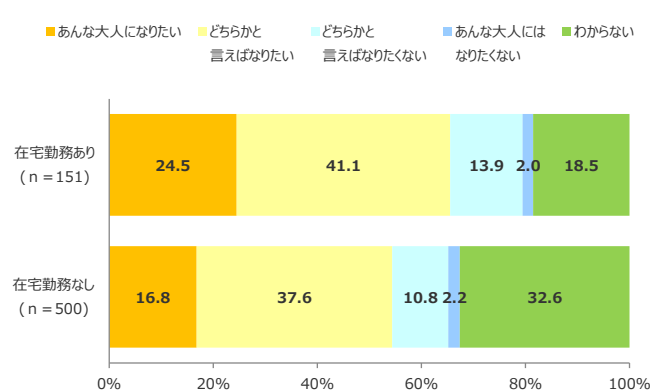
【図15.5】働いている母親を見てどのように感じているか：家揃っての食事回数別



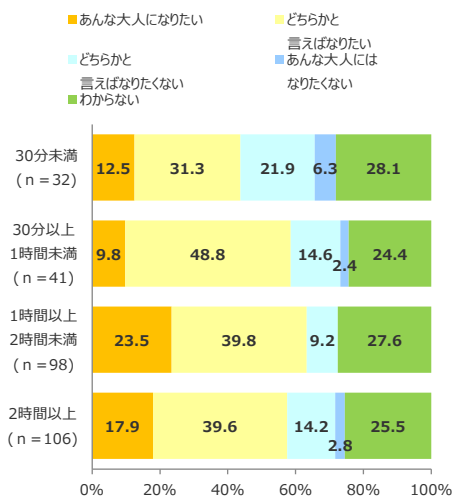
【図15.6】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の就労状況別



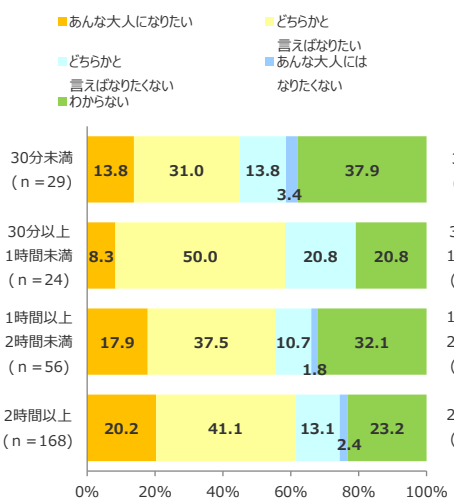
【図15.7】働いている母親を見てどのように感じているか：有職の母親の在宅勤務状況別



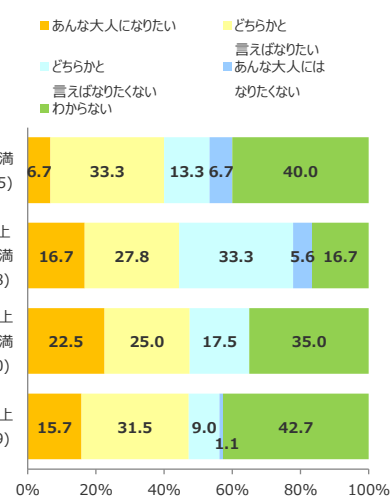
【図15.8】働いている母親を見てどのように感じているか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図15.9】働いている母親を見てどのように感じているか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図15.10】働いている母親を見てどのように感じているか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別

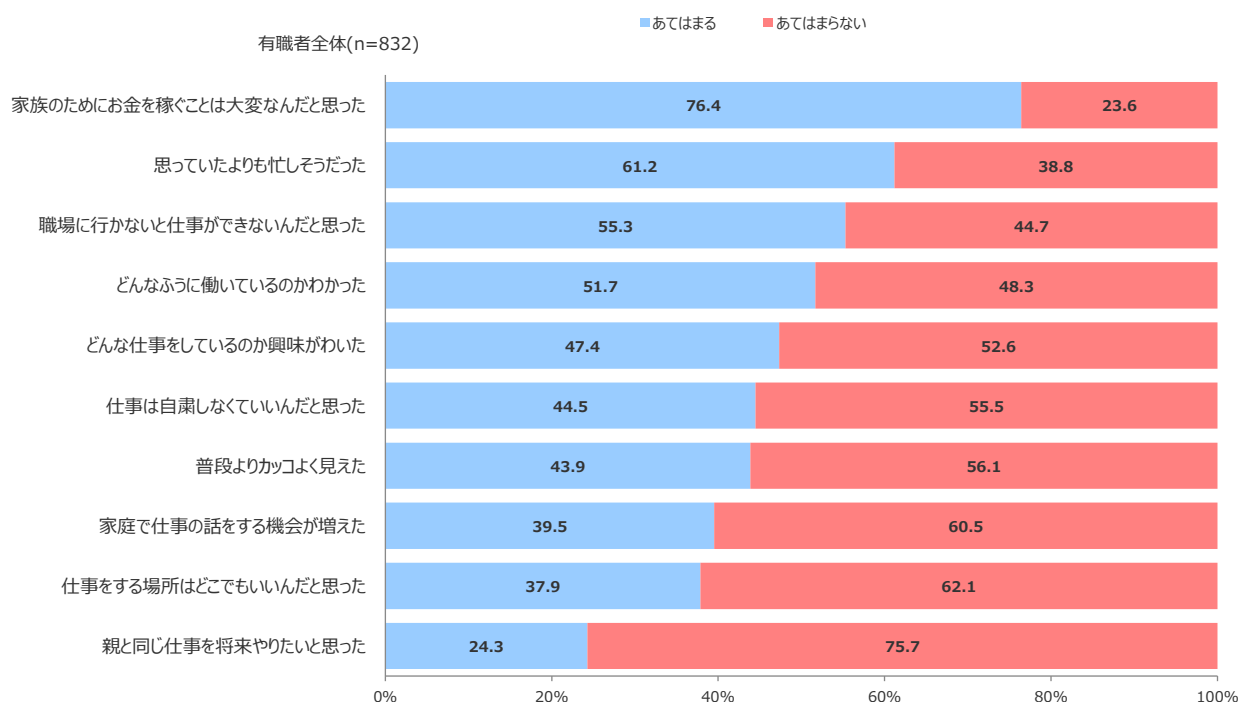


新型コロナウイルス感染症拡大前後での親の仕事に対する印象の変化[有職者]

小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親（有職者のみ）の仕事に対する印象が変わったかを10項目に分けて、「あてはまる」「あてはまらない」の2択で聞いた。

「あてはまる」の回答が最も多かったのは、「家族のためにお金を稼ぐことは大変ななだと思った」で76.4%となった。次いで「思っていたよりも忙しそうだった」61.2%、「職場に行かないと仕事ができないなだと思った」55.3%、「どんなふうにいるのかわかった」51.7%で過半数を超えた。以降「どんな仕事をしているのか興味があった」47.4%、「仕事は自粛しなくていいなだと思った」44.5%、「普段よりカッコよく見えた」43.9%、「家庭で仕事の話をする機会が増えた」39.5%、「仕事をする場所はどこでもいいなだと思った」37.9%、「親と同じ仕事を将来やりたいと思った」24.3%の順であった（図16.1）。

【図16.1】新型コロナウイルス感染症拡大前後での親の仕事に対する印象の変化：有職者

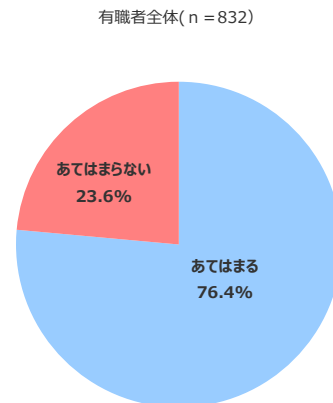


①家族のためにお金を稼ぐことは大変ななだと思った

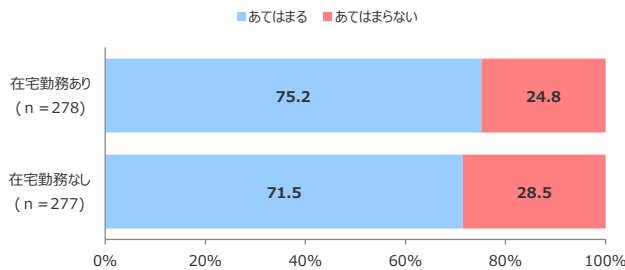
小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「家族のためにお金を稼ぐことは大変ななだと思った」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が76.4%、「あてはまらない」が23.6%となった(図16.2)。

在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で75.2%、「在宅勤務なし」で71.5%となり、「在宅勤務あり」の方が3.7ポイント高くなった(図16.3)。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で80.3%、「在宅勤務なし」で83.4%となり、男性有職者の子供と反対に「在宅勤務なし」の方が3.1ポイント高くなっている(図16.4)。

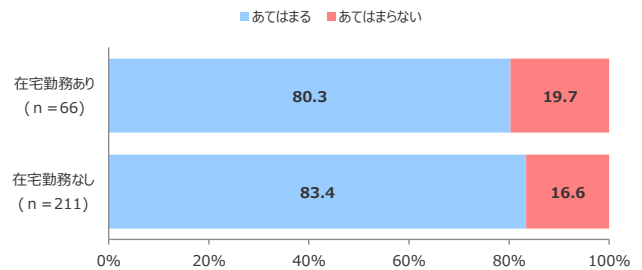
【図16.2】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化①：有職者



【図16.3】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化①：男性有職者の在宅勤務状況別



【図16.4】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化①：女性有職者の在宅勤務状況別

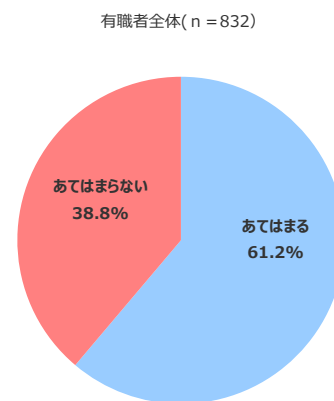


②思っていたよりも忙しそうだった

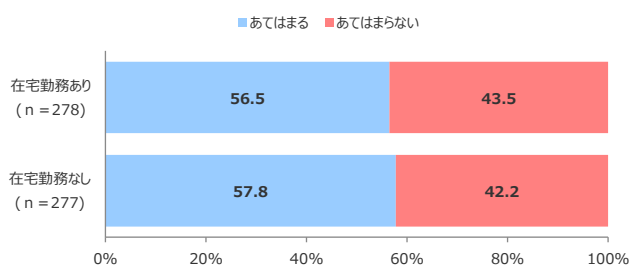
小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「思ったよりも忙しそうだった」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が61.2%、「あてはまらない」が38.8%となった(図16.5)。

在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で56.5%、「在宅勤務なし」で57.8%とほとんど差はなかった(図16.6)。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で77.3%、「在宅勤務なし」で66.8%となり、「在宅勤務あり」の方が10.5ポイント高くなっている(図16.7)。

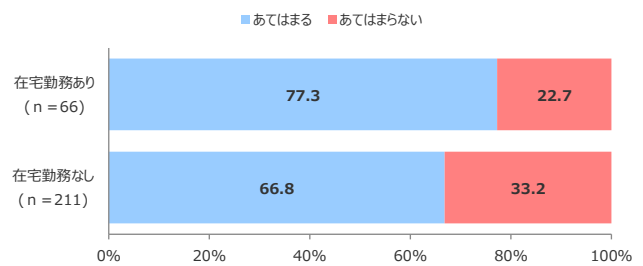
【図16.5】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化②：有職者



【図16.6】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化②：男性有職者の在宅勤務状況別



【図16.7】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化②：女性有職者の在宅勤務状況別



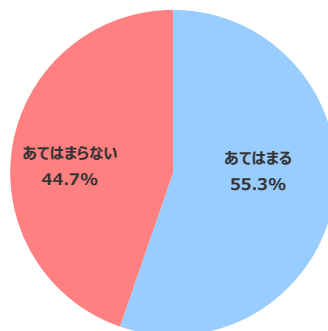
③職場に行かないと仕事ができないんだと思った

小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「職場に行かないと仕事ができないんだと思った」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が55.3%、「あてはまらない」が44.7%となった（図16.8）。

在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で42.1%、「在宅勤務なし」で63.2%となり、「在宅勤務なし」の方が21.1ポイント高くなった（図16.9）。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で53.0%、「在宅勤務なし」で63.0%となり、男性有職者の子供と同様に「在宅勤務なし」の方が高く、10.0ポイント差となっている（図16.10）。緊急事態宣言の発出により、小学校は休校になったが、そんな時にも職場に行く親の姿を見て、「在宅勤務なし」の親の子供では「あてはまる」の割合が高くなっていると思われる。

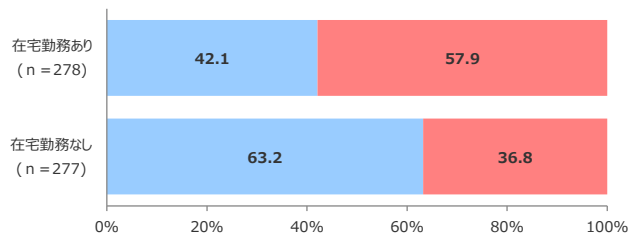
【図16.8】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化③：有職者

有職者全体 (n = 832)



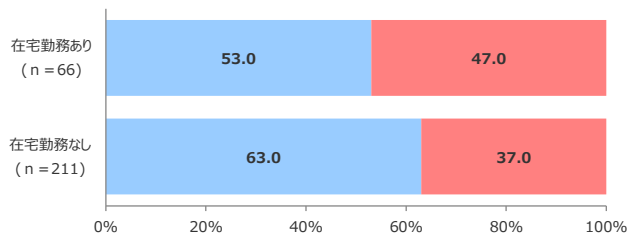
【図16.9】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化③
：男性有職者の在宅勤務状況別

■あてはまる ■あてはまらない



【図16.10】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化③
：女性有職者の在宅勤務状況別

■あてはまる ■あてはまらない



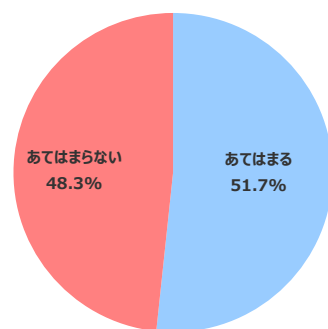
④どんなふうに働いているのかわかった

小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「どんなふうに働いているのかわかった」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が51.7%、「あてはまらない」が48.3%と拮抗している（図16.11）。

在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で54.0%、「在宅勤務なし」で46.9%となり、「在宅勤務あり」の方が7.1ポイント高くなった（図16.12）。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で66.7%、「在宅勤務なし」で50.2%となり、男性有職者の子供と同様に「在宅勤務あり」の方が高く、16.5ポイント差となっている（図16.13）。

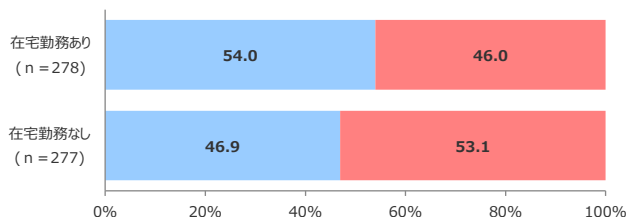
【図16.11】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化④：有職者

有職者全体 (n = 832)



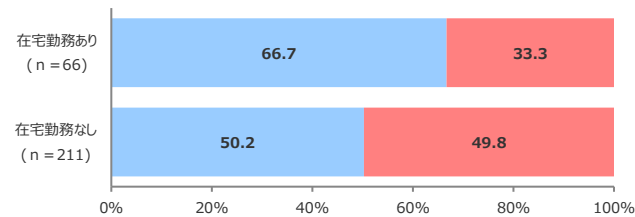
【図16.12】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化④
：男性有職者の在宅勤務状況別

■あてはまる ■あてはまらない



【図16.13】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化④
：女性有職者の在宅勤務状況別

■あてはまる ■あてはまらない



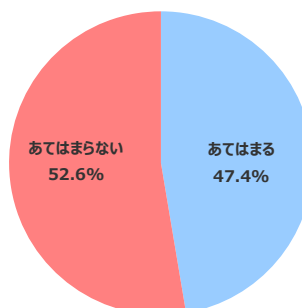
⑤どんな仕事をしているのか興味がわいた

小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「どんな仕事をしているのか興味がわいた」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が47.4%、「あてはまらない」が52.6%となった（図16.14）。

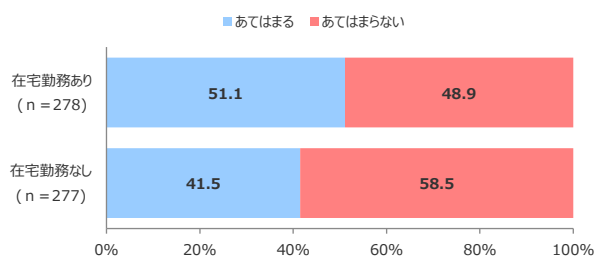
在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で51.1%、「在宅勤務なし」で41.5%となり、「在宅勤務あり」の方が9.6ポイント高くなった（図16.15）。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で62.1%、「在宅勤務なし」で45.5%となり、男性有職者の子供と同様に「在宅勤務あり」の方が高く、16.6ポイント差となっている（図16.16）。

【図16.14】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑤：有職者

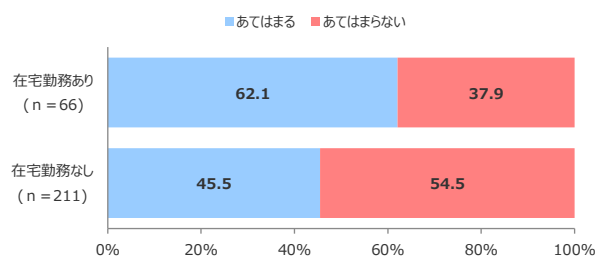
有職者全体 (n = 832)



【図16.15】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑤：男性有職者の在宅勤務状況別



【図16.16】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑤：女性有職者の在宅勤務状況別



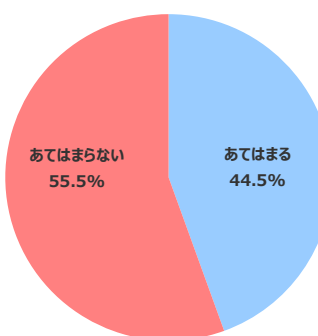
⑥仕事は自粛しなくていいんだと思った

小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「仕事は自粛しなくていいんだと思った」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が44.5%、「あてはまらない」が55.5%となった（図16.17）。

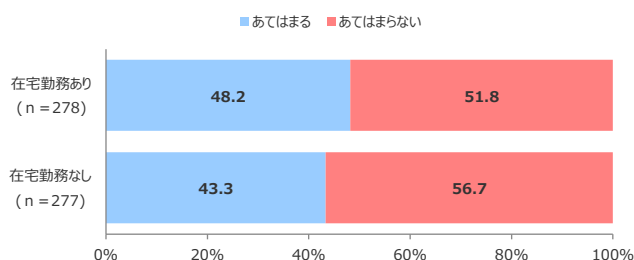
在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で48.2%、「在宅勤務なし」で43.3%となり、「在宅勤務あり」の方が4.9ポイント高くなった（図16.18）。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で54.5%、「在宅勤務なし」で37.9%となり、男性有職者の子供と同様に「在宅勤務あり」の方が高く、16.6ポイント差となっている（図16.19）。

【図16.17】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑥：有職者

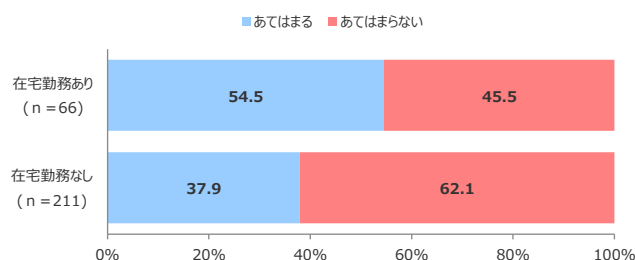
有職者全体 (n = 832)



【図16.18】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑥：男性有職者の在宅勤務状況別



【図16.19】コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑥：女性有職者の在宅勤務状況別



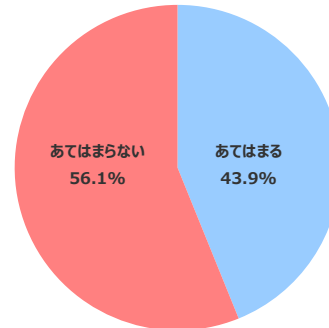
⑦ 普段よりカッコよく見えた

小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「普段よりカッコよく見えた」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が43.9%、「あてはまらない」が56.1%となった(図16.20)。

在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で43.5%、「在宅勤務なし」で39.7%となり、「在宅勤務あり」の方が3.8ポイント高くなった(図16.21)。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で54.5%、「在宅勤務なし」で46.4%となり、男性有職者の子供と同様に「在宅勤務あり」の方が高く、8.1ポイント差となっている(図16.22)。

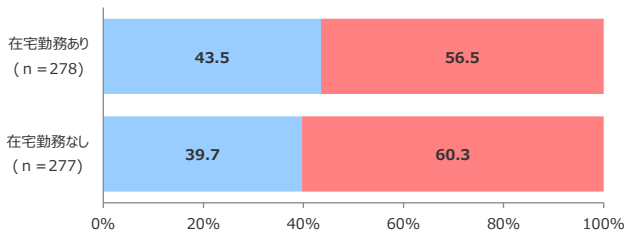
【図16.20】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑦：有職者

有職者全体 (n = 832)



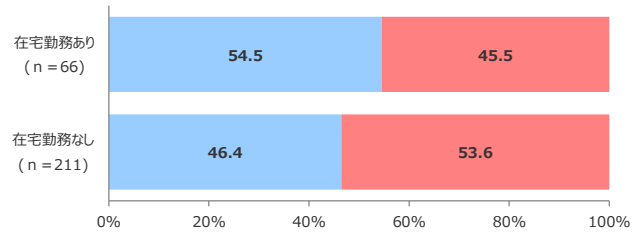
【図16.21】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑦
：男性有職者の在宅勤務状況別

■あてはまる ■あてはまらない



【図16.22】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑦
：女性有職者の在宅勤務状況別

■あてはまる ■あてはまらない



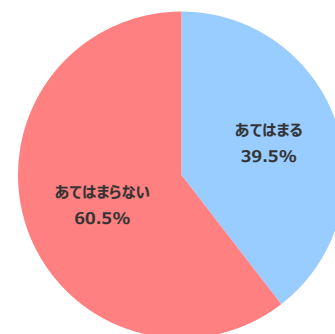
⑧ 家で仕事の話をする機会が増えた

小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「家で仕事の話をする機会が増えた」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が39.5%、「あてはまらない」が60.5%となった(図16.23)。

在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で40.6%、「在宅勤務なし」で32.5%となり、「在宅勤務あり」の方が8.1ポイント高くなった(図16.24)。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で66.7%、「在宅勤務なし」で38.9%となり、男性有職者の子供と同様に「在宅勤務あり」の方が高く、その差は27.8ポイントと大きくなっている(図16.25)。

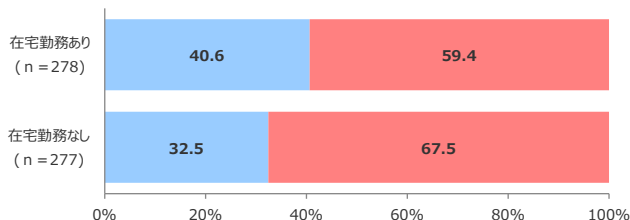
【図16.23】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑧：有職者

有職者全体 (n = 832)



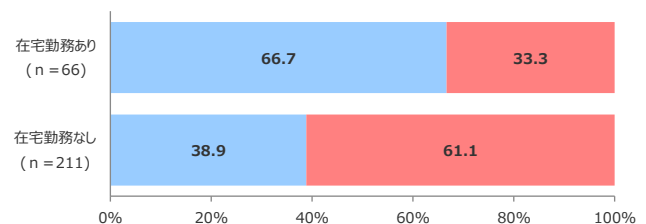
【図16.24】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑧
：男性有職者の在宅勤務状況別

■あてはまる ■あてはまらない



【図16.25】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑧
：女性有職者の在宅勤務状況別

■あてはまる ■あてはまらない

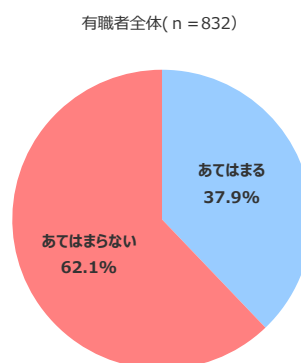


⑨仕事をする場所はどこでもいいんだと思った

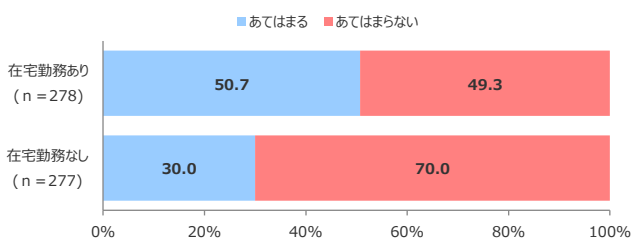
小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「仕事をする場所はどこでもいいんだと思った」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が37.9%、「あてはまらない」が62.1%となった（図16.26）。

在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で50.7%、「在宅勤務なし」で30.0%となり、「在宅勤務あり」の方が20.7ポイント高くなった（図16.27）。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で56.1%、「在宅勤務なし」で25.6%となり、男性有職者の子供と同様に「在宅勤務あり」の方が高く、その差は30.5ポイントと大きくなっている（図16.28）。

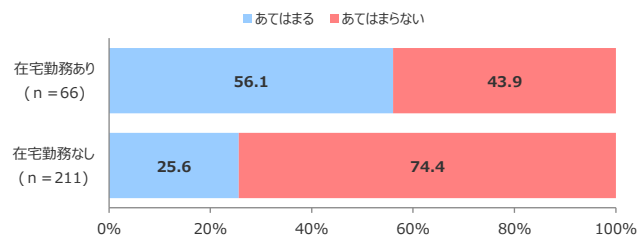
【図16.26】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑨：有職者



【図16.27】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑨：男性有職者の在宅勤務状況別



【図16.28】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑨：女性有職者の在宅勤務状況別

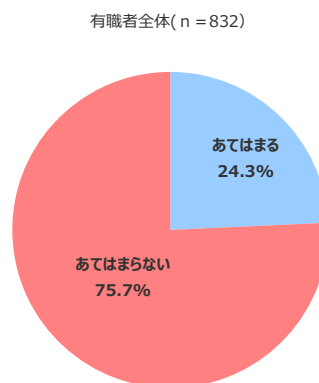


⑩親と同じ仕事を将来やりたいと思った

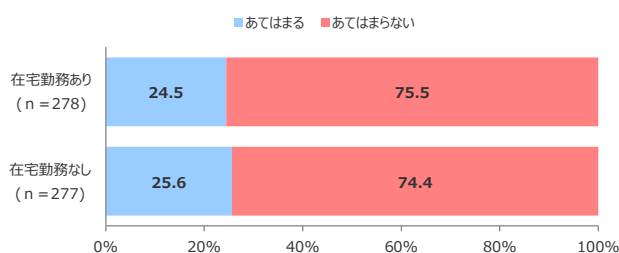
小学校5-6年生の子供に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、親の仕事に対して印象が変わったかを聞いた。「親と同じ仕事を将来やりたいと思った」については、有職者の子供全体では、「あてはまる」が24.3%、「あてはまらない」が75.7%となった（図16.29）。

在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供は、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で24.5%、「在宅勤務なし」で25.6%とほとんど差はなかった（図16.30）。一方、女性有職者の子供では、「あてはまる」が「在宅勤務あり」で39.4%、「在宅勤務なし」で17.5%となり、「在宅勤務あり」の方が高く、その差は21.9ポイントと大きくなっている（図16.31）。

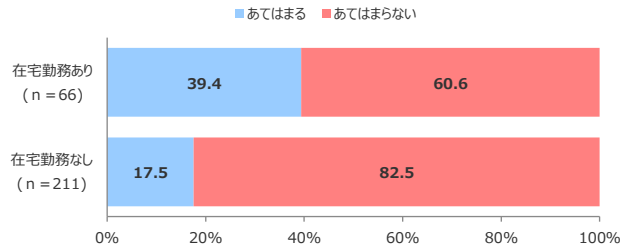
【図16.29】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑩：有職者



【図16.30】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑩：男性有職者の在宅勤務状況別



【図16.31】 コロナ前後での親の仕事に対する印象の変化⑩：女性有職者の在宅勤務状況別



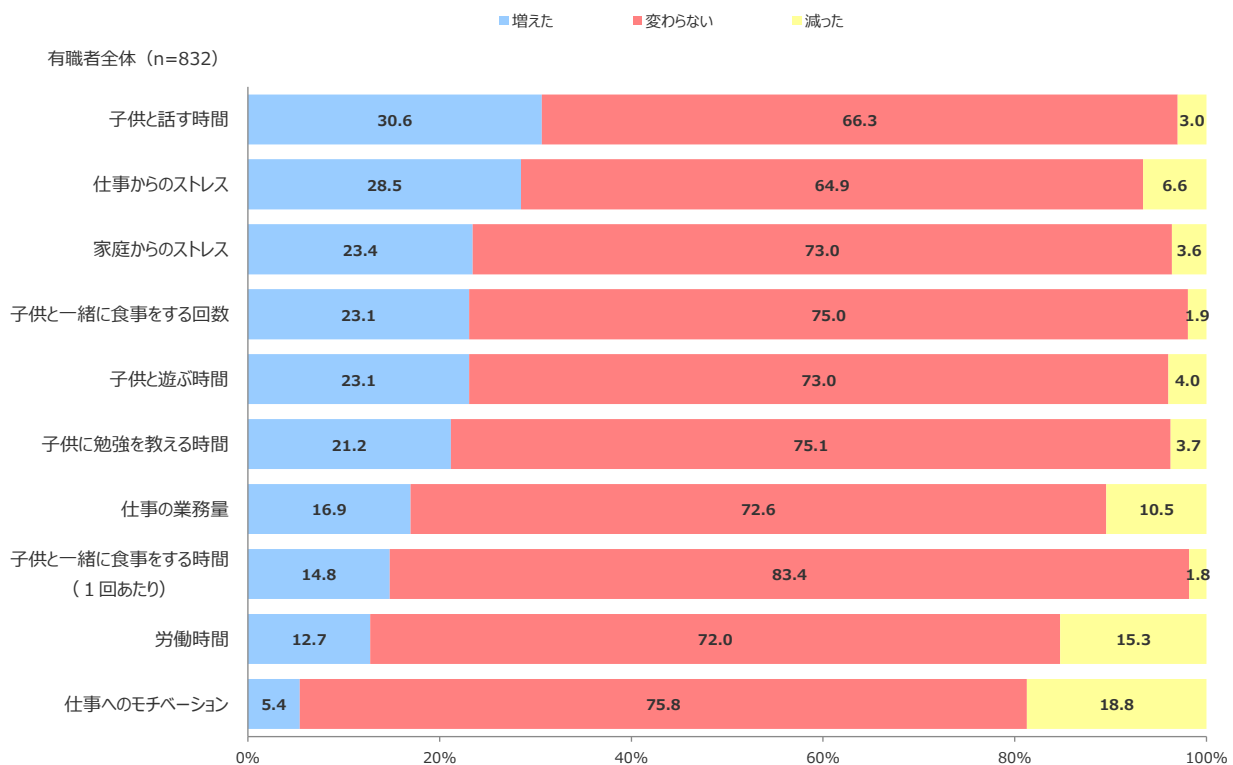
新型コロナウイルス感染症 拡大前後での変化 [有職者]

小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、子供との関わりや仕事に関する項目に変化があったかを10項目に分けて、「増えた」「変わらない」「減った」の3択で聞いた。

「増えた」の回答が最も多かったのは、「子供と話す時間」で30.6%となった。次いで「仕事からのストレス」28.5%、「家庭からのストレス」23.4%、「子供と一緒に食事をする回数」23.1%、「子供と遊ぶ時間」23.1%、「子供に勉強を教える時間」21.2%、「仕事の業務量」16.9%、「子供と一緒に食事をする時間（1回あたり）」14.8%、「労働時間」12.7%、「仕事へのモチベーション」5.4%の順であった（図17.1）。

「仕事のストレス」「家庭からのストレス」が上位にあがっている。「仕事からのストレス」は、テレワークなど今までと違った働き方を急に求められたり、仕事先の休業で雇用や収入減の不安などにより、増えたと考えられる。また、「家庭からのストレス」は、ステイホームの呼びかけや感染対策で家にいる時間が多くなり、日常とは違う過ごし方でストレスが増えたと考えられる。一方、「仕事へのモチベーション」の「増えた」は5.8%で最も低かったが、裏を返せば「減った」が17.1%と最も多くなっており、新型コロナウイルスの感染拡大により、仕事への意欲にも影響を与えているようだ。

【図17.1】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化：有職者



①子供と話す時間

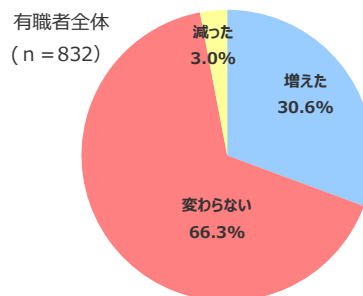
小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「子供と話す時間」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」30.6%、「変わらない」66.3%、「減った」3.0%となった（図17.2）。

在宅勤務状況別・休業状況別にみると、子供と話す時間が「増えた」の男性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が40.3%で、「在宅勤務なし」の20.6%より割合が19.7ポイント高い。また、「休業あり」は39.6%、「休業なし」は28.5%で、「休業あり」の方が11.1ポイント高くなった（図17.3）。

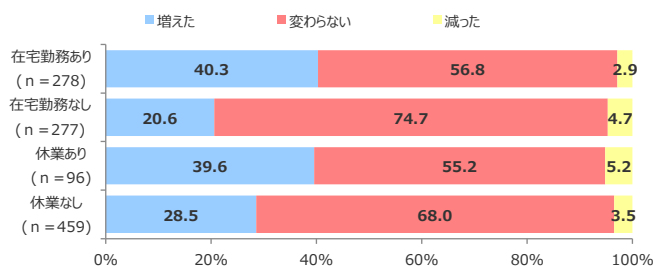
一方、子供と話す時間が「増えた」の女性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が40.9%で、「在宅勤務なし」の28.0%より12.9ポイント高い。また、「休業あり」は43.7%で、「休業なし」の25.3%より18.4ポイント高くなった（図17.4）。

男女とも、在宅勤務・休業があった方が、子供と話す時間が増えていた。

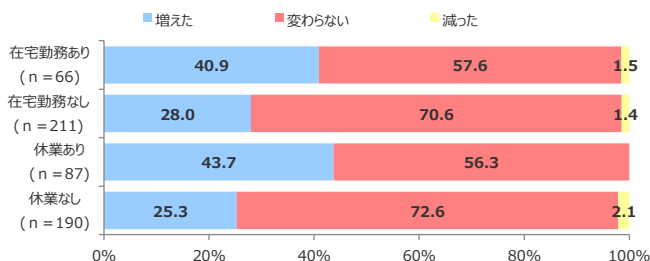
【図17.2】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化①：有職者



【図17.3】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化①：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.4】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化①：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



②仕事からのストレス

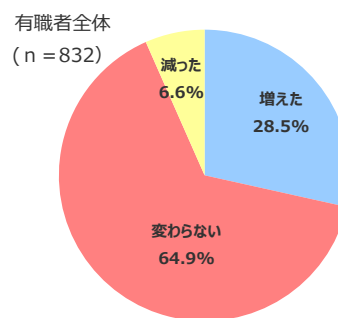
小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「仕事からのストレス」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」28.5%、「変わらない」64.9%、「減った」6.6%である（図17.5）。

在宅勤務状況別・休業状況別にみると、仕事からのストレスが「増えた」の男性有職者の回答は、在宅勤務の有無ではほぼ差はない。一方、「休業あり」は40.6%で、「休業なし」の26.6%より14.0ポイント高くなった（図17.6）。

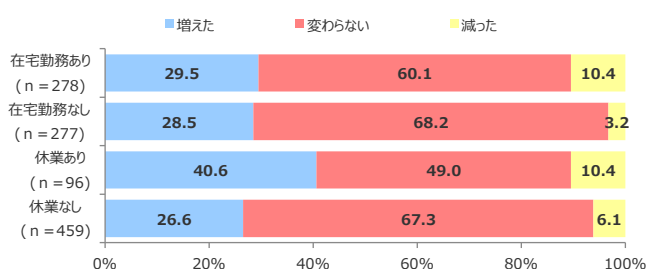
仕事からのストレスが「増えた」の女性有職者の回答も、在宅勤務の有無では、男性有職者同様ほぼ差がない。また、「休業あり」は29.9%、「休業なし」は26.3%で、「休業あり」の方が3.6ポイントと若干高くなった（図17.7）。

男女とも、仕事からのストレスの増加に在宅勤務の有無による差はなかったが、男性有職者では「減った」が「在宅勤務あり」で10.4%と、「在宅勤務なし」の3.2%に比べて7.2ポイント高くなった。また、女性有職者では「減った」が「休業あり」で12.6%と、「休業なし」に比べて9.4ポイント高くなっているのが目を引く。休業の有無による仕事からのストレスは、休業中の生活面の不安であったり、仕事の重圧からの解放であったりと、人によって事情が異なることがみてとれる。

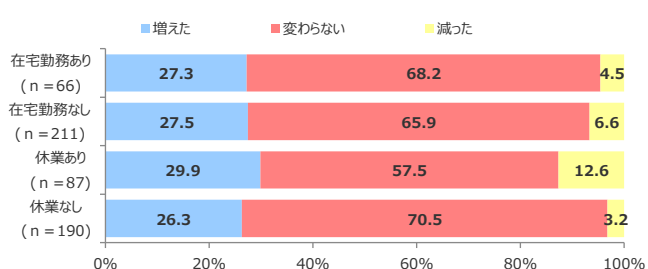
【図17.5】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化②：有職者



【図17.6】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化②：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.7】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化②：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



③家庭からのストレス

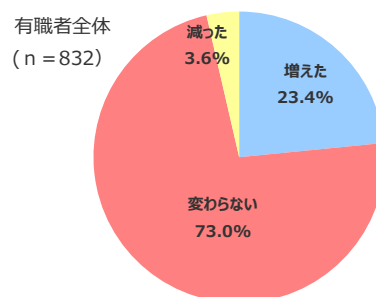
小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「家庭からのストレス」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」23.4%、「変わらない」73.0%、「減った」3.6%となった(図17.8)。

在宅勤務状況別・休業状況別にみると、家庭からのストレスが「増えた」の男性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が18.3%、「在宅勤務なし」が18.8%でほぼ差はない。また、「休業あり」は26.0%、「休業なし」は17.0%で、「休業あり」の方が9.0ポイント高くなった(図17.9)。

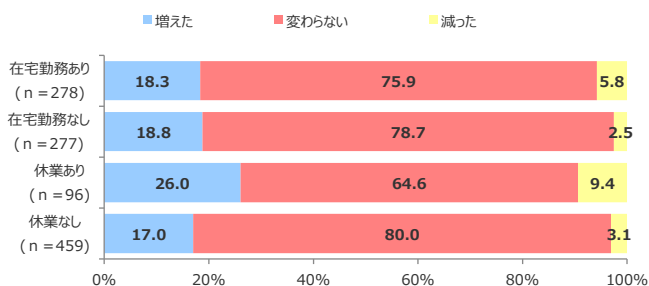
一方、家庭からのストレスが「増えた」の女性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が34.8%、「在宅勤務なし」が32.7%で、「在宅勤務あり」の方が2.1ポイントと若干高くなった。また、「休業あり」は44.8%で、「休業なし」の27.9%より16.9ポイント高く、家庭からのストレスがより増加しているようだ(図17.10)。

男女とも、「休業あり」の場合にストレス増加の割合が高くなる。また、女性有職者は、男性有職者に比べて、総じて家庭からのストレスが「増えた」割合が高く、その裏には女性の育児・家事負担が増えたことが推測できる。

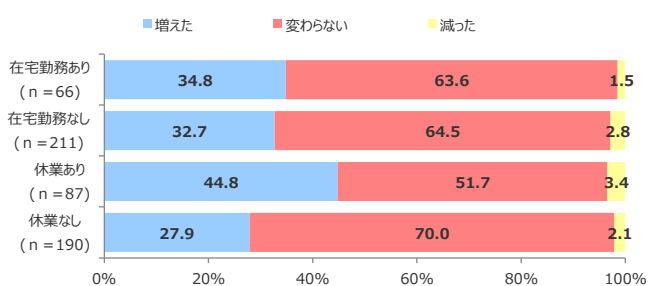
【図17.8】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化③：有職者



【図17.9】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化③：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.10】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化③：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



④子供と一緒に食事をする回数

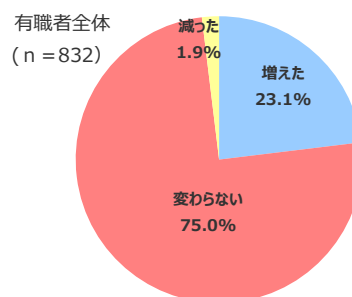
小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「子供と一緒に食事をする回数」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」23.1%、「変わらない」75.0%、「減った」1.9%となった(図17.11)。

在宅勤務状況別・休業状況別にみると、子供と一緒に食事をする回数が「増えた」の男性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が38.5%で、「在宅勤務なし」の10.5%より28.0ポイント高い。また、「休業あり」は32.3%、「休業なし」は22.9%で、「休業あり」の方が9.4ポイント高くなった(図17.12)。

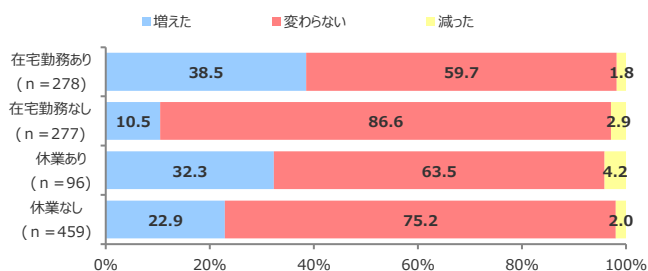
一方、子供と一緒に食事をする回数が「増えた」の女性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が34.8%で、「在宅勤務なし」の15.6%より19.2ポイント高い。また、「休業あり」は28.7%、「休業なし」は16.3%で、「休業あり」の方が12.4ポイント高くなった(図17.13)。

男女とも、在宅勤務・休業があった方が、子供と一緒に食事をする回数が増えていた。

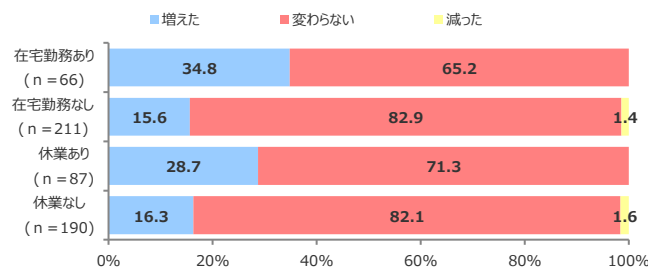
【図17.11】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化④：有職者



【図17.12】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化④：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.13】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化④：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



⑤子供と遊ぶ時間

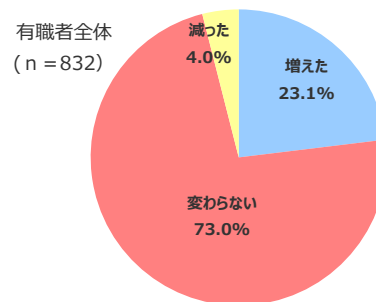
小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「子供と遊ぶ時間」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」23.1%、「変わらない」73.0%、「減った」4.0%となった（図17.14）。

在宅勤務状況別・休業状況別にみると、子供と遊ぶ時間が「増えた」の男性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が32.4%で、「在宅勤務なし」の15.5%より16.9ポイント高い。また、「休業あり」は38.5%、「休業なし」は20.9%で、「休業あり」の方が17.6ポイント高くなった（図17.15）。

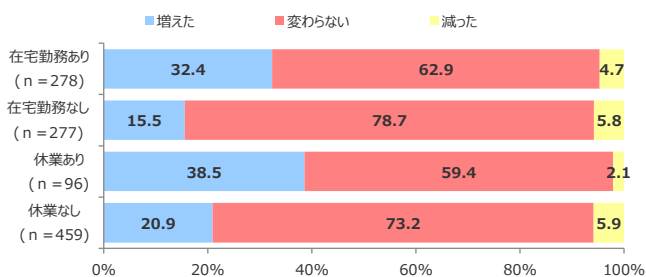
一方、子供と遊ぶ時間が「増えた」の女性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が27.3%で、「在宅勤務なし」の19.4%より7.9ポイント高い。また、「休業あり」は33.3%、「休業なし」は15.8%で、「休業あり」の方が17.5ポイント高くなった（図17.16）。

男女とも、在宅勤務・休業があった方が、子供と遊ぶ時間が増えていた。

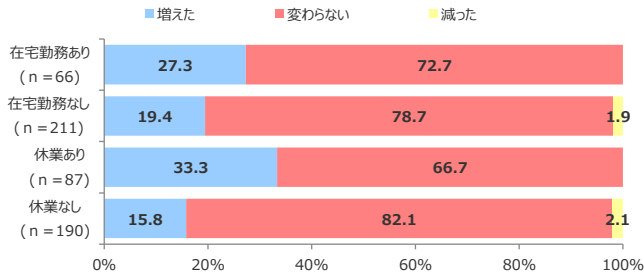
【図17.14】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑤：有職者



【図17.15】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑤：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.16】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑤：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



⑥子供に勉強を教える時間

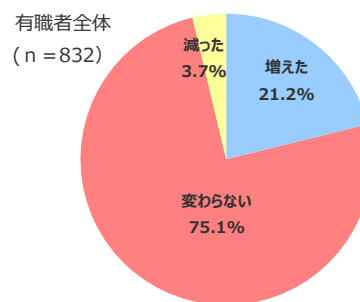
小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「子供の勉強を教える時間」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」21.2%、「変わらない」75.1%、「減った」3.7%となった（図17.17）。

在宅勤務状況別・休業状況別にみると、子供に勉強を教える時間が「増えた」の男性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が29.5%で、「在宅勤務なし」の11.2%より18.3ポイント高い。また、「休業あり」は30.2%、「休業なし」は18.3%で、「休業あり」の方が11.9ポイント高くなった（図17.18）。

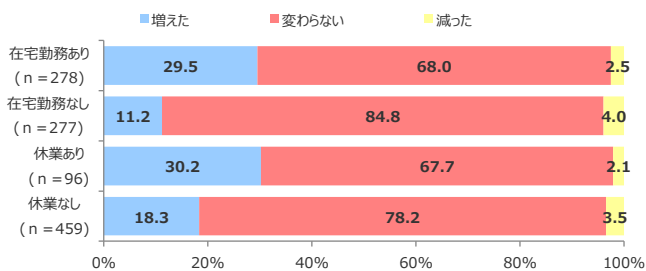
一方、子供に勉強を教える時間が「増えた」の女性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が25.8%で、「在宅勤務なし」の21.8%より4.0ポイント高いが、男性有職者より差が少ない。また、「休業あり」は29.9%、「休業なし」は19.5%で、「休業あり」の方が10.4ポイント高くなった（図17.19）。

男女とも、在宅勤務・休業があった方が、子供に勉強を教える時間が増えていた。

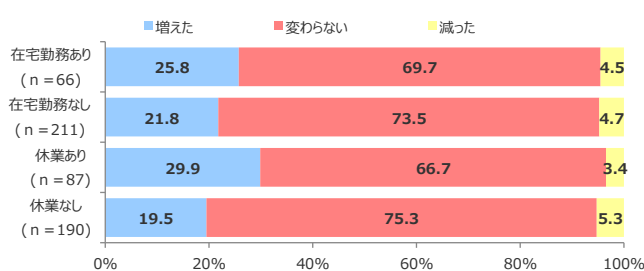
【図17.17】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑥：有職者



【図17.18】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑥：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.19】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑥：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



⑦仕事の業務量

小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「仕事の業務量」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」16.9%、「変わらない」72.6%、「減った」10.5%となった（図17.20）。

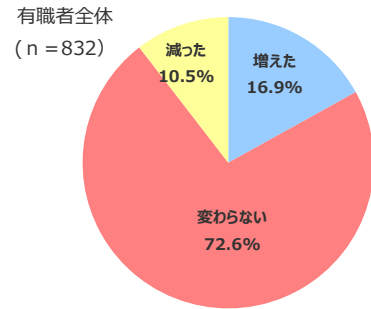
在宅勤務状況別・休業状況別にみると、仕事の業務量が「増えた」の回答は、女性有職者の「休業なし」に比べて「休業あり」の方が4.4ポイント高いが、それ以外はあまり差がなかった。

一方、仕事の業務量が「減った」の男性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が14.4%で、「在宅勤務なし」の6.9%より7.5ポイント高い。また、「休業あり」は27.1%、「休業なし」は7.2%で、「休業あり」の方が19.9ポイント高くなった（図17.21）。

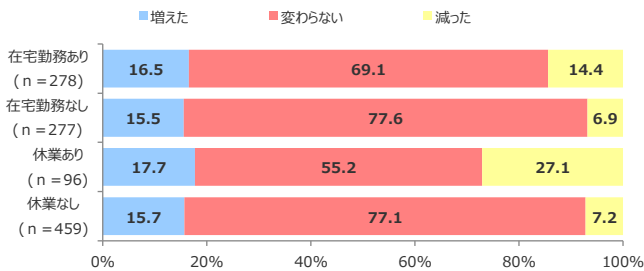
仕事の業務量が「減った」の女性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が10.6%、「在宅勤務なし」が10.0%でほとんど差はない。また、「休業あり」は20.7%、「休業なし」は5.3%で、「休業あり」の方が15.4ポイント高くなった（図17.22）。

男女とも、「在宅勤務あり」「休業あり」の方が仕事の業務量は「減った」と回答している割合が高い。

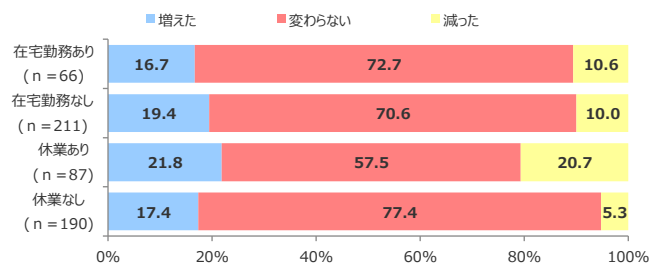
【図17.20】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑦：有職者



【図17.21】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑦：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.22】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑦：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



⑧子供と一緒に食事をする時間（1回あたり）

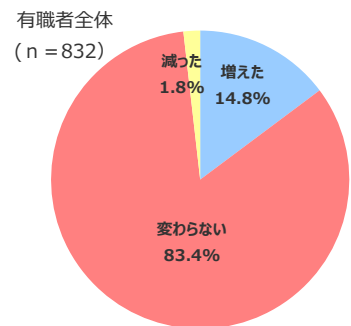
小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「子供と一緒に食事をする時間」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」14.8%、「変わらない」83.4%、「減った」1.8%となった（図17.23）。

在宅勤務状況別・休業状況別にみると、子供と一緒に食事をする時間が「増えた」の男性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が19.4%で「在宅勤務なし」の8.3%より割合が11.1ポイント高い。また、「休業あり」は21.9%、「休業なし」は12.2%で、「休業あり」の方が9.7ポイント高くなった（図17.24）。

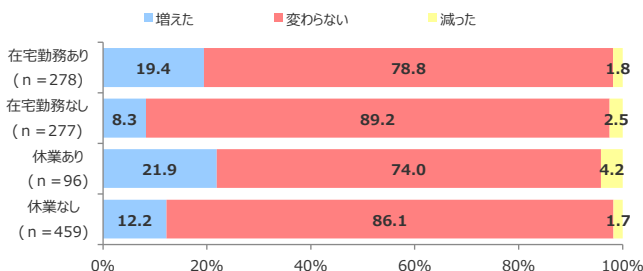
一方、子供と一緒に食事をする時間が「増えた」の女性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が31.8%で、「在宅勤務なし」の11.8%より20.0ポイント高い。また、「休業あり」は23.0%、「休業なし」は13.7%で、「休業あり」の方が9.3ポイント高くなった（図17.25）。

男女とも、在宅勤務・休業があった方が、子供と一緒に食事をする時間が増えており、なかでも男性より女性の方が「増えた」との回答割合が高い。

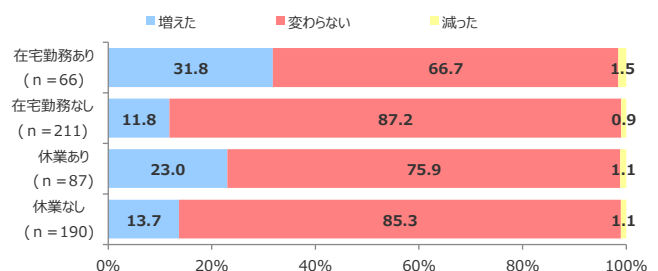
【図17.23】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑧：有職者



【図17.24】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑧：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.25】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑧：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



⑨労働時間

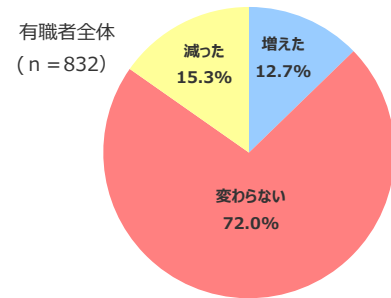
小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「労働時間」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」12.7%、「変わらない」72.0%、「減った」15.3%となった（図17.26）。

在宅勤務状況別・休業状況別にみると、労働時間が「増えた」の回答は、男性有職者、女性有職者とも「在宅勤務あり」「休業あり」の方が、「在宅勤務なし」「休業なし」に比べて割合が若干高くなっていた。

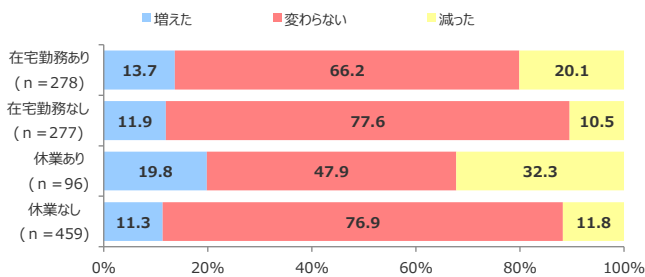
一方、労働時間が「減った」の男性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が20.1%で、「在宅勤務なし」の10.5%より9.6ポイント高い。また、「休業あり」は32.3%、「休業なし」は11.8%で、「休業あり」の方が20.5ポイント高くなった（図17.27）。

労働時間が「減った」の女性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が18.2%で、「在宅勤務なし」の14.2%より割合が4.0ポイントと若干高い。「休業あり」は28.7%、「休業なし」は8.9%で、「休業あり」の方が19.8ポイント高くなった（図17.28）。

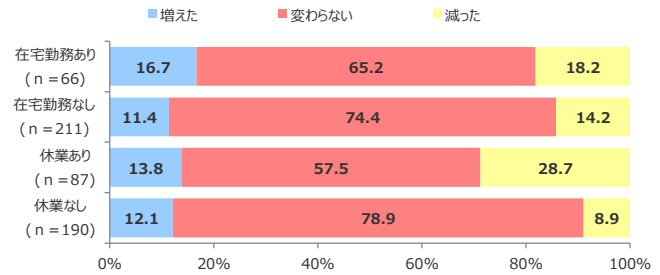
【図17.26】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑨：有職者



【図17.27】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑨：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.28】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑨：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



⑩仕事へのモチベーション

小学校5-6年生の子供がいる有職の男女に、新型コロナウイルス感染症拡大の前と後で、「仕事へのモチベーション」に変化があったかを聞いた。全体では「増えた」5.4%、「変わらない」75.8%、「減った」18.8%である（図17.29）。

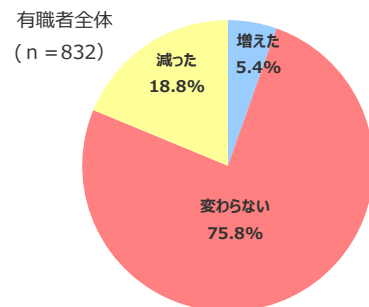
在宅勤務状況別・休業状況別にみると、仕事へのモチベーションが「増えた」の回答は、男性有職者、女性有職者とも「在宅勤務あり」「休業あり」の方が、「在宅勤務なし」「休業なし」に比べて割合が若干高くなっていた。

一方、仕事へのモチベーションが「減った」の男性有職者の回答は、「在宅勤務あり」が21.9%で、「在宅勤務なし」の18.8%より3.1ポイント高い。また、「休業あり」は36.5%、「休業なし」は17.0%で、「休業あり」の方が19.5ポイント高くなった（図17.30）。

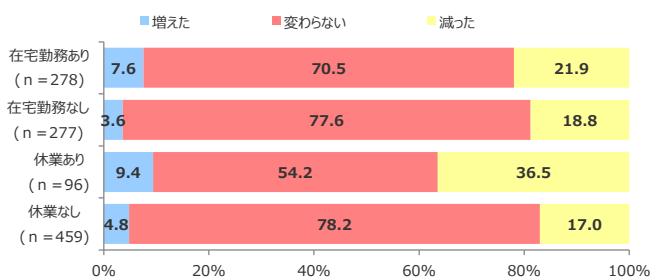
仕事へのモチベーションが「減った」の女性有職者の回答は、「在宅勤務なし」が16.1%で、「在宅勤務あり」の13.6%より2.5ポイント高い。「休業あり」は21.8%、「休業なし」は12.6%で、「休業あり」の方が9.2ポイント高くなった（図17.31）。

特に男性有職者では、休業の発生により、仕事へのモチベーションは大きく低下する結果となった。

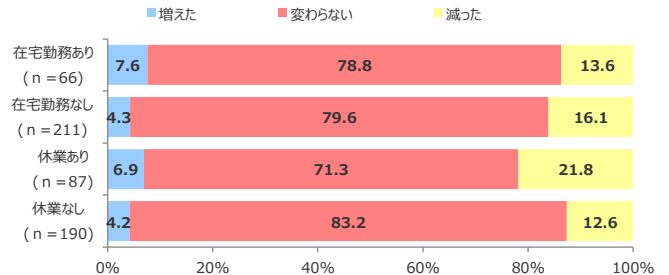
【図17.29】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑩：有職者



【図17.30】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑩：男性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



【図17.31】新型コロナウイルス感染症拡大前後での変化⑩：女性有職者の在宅勤務状況別・休業状況別



将来働くことは楽しみか

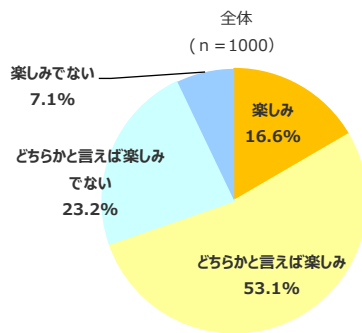
小学校5-6年生の子供に、将来働くことを楽しみに感じているかを聞いた。結果は、「楽しみ・計（「どちらかと言えば楽しみ」も含む、以下同）」が69.7%となった（図18.1）。2018年調査の「楽しみ・計」は75.0%で、今回の調査では5.3ポイント下がっている（図18.2）。

「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど「楽しみ・計」が概ね高くなる傾向にある（図18.3）。

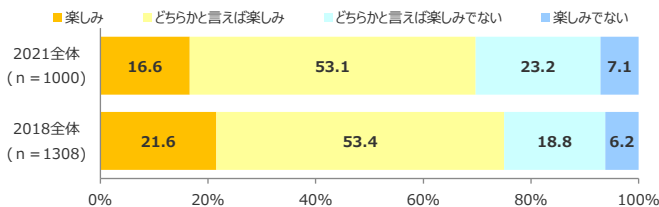
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見た。父親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が73.8%、母親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が75.5%となり、それぞれ親の働く姿を「見たことがない」子供よりも高くなっていった（図18.4、図18.5）。

「子供調査：働く父親は楽しそうか」「子供調査：働く母親は楽しそうか」との関係を見た。父親、母親ともに働く姿を「楽しそう」と感じている子供は「楽しみ・計」が80%を超えていた。それぞれ親の働く姿を「嫌そう」「わからない」と感じている子供よりも大幅に高くなっており、親の働く様子が子供にも伝わり、ポジティブな将来イメージを抱かせることが感じられる（図18.6、図18.7）。

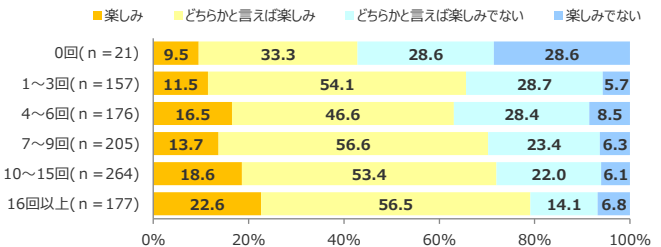
【図18.1】将来働くことを楽しみに感じているか



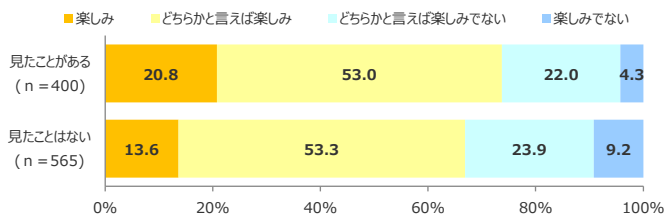
【図18.2】将来働くことを楽しみに感じているか：2018年調査比較



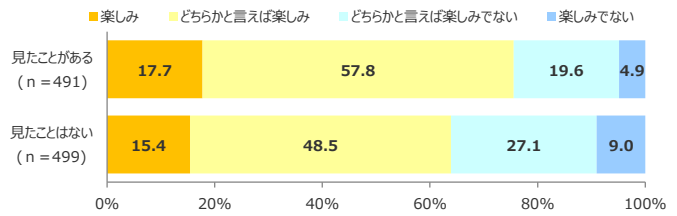
【図18.3】将来働くことを楽しみに感じているか：家族揃っての食事回数別



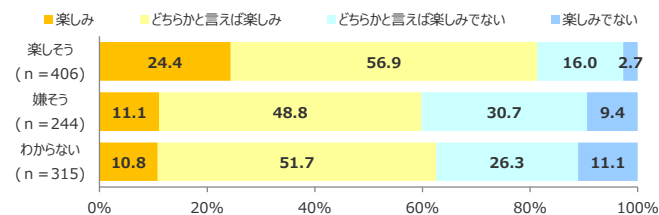
【図18.4】将来働くことを楽しみに感じているか：父親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



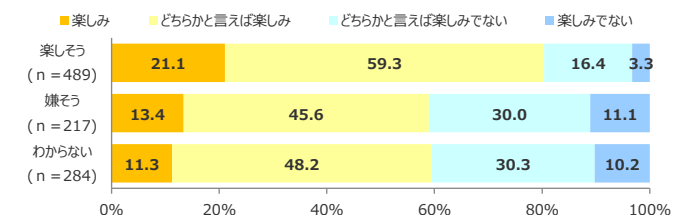
【図18.5】将来働くことを楽しみに感じているか：母親の働く姿（無職者も含む）を見たことがあるか別



【図18.6】将来働くことを楽しみに感じているか：働く父親は楽しそうか別



【図18.7】将来働くことを楽しみに感じているか：働く母親は楽しそうか別

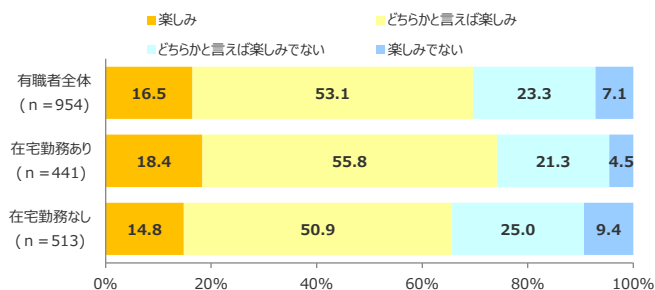


在宅勤務状況別にみると、在宅勤務があった父親、母親の子供の方が、在宅勤務がなかった父親、母親の子供より、「楽しみ・計」の割合が高くなっている。在宅勤務で親の仕事ぶりを身近に見ていたことが影響しているのかもしれない（図18.8、図18.9）。

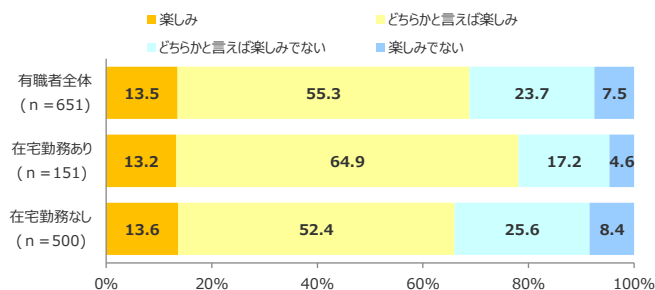
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の男性では、会話時間が長い男性の子供ほど、将来働くことを「楽しみ・計」と感じている割合が概ね高くなる（図18.10、図18.11）。

また、有職の女性の場合、労働日、休日ともに会話時間が「30分以上1時間未満」で「楽しみ・計」が最も高くなった。一方、無職の場合は、会話時間が「2時間以上」で、「楽しみ・計」が最も高くなっていた（図18.12、図18.13、図18.14）。

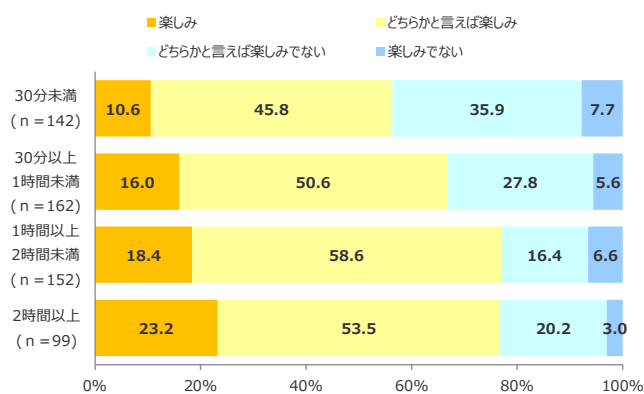
【図18.8】 将来働くことを楽しみに感じているか
：有職の父親の在宅勤務状況別



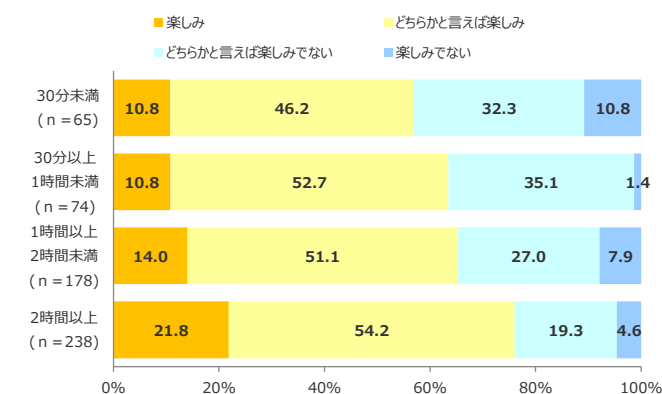
【図18.9】 将来働くことを楽しみに感じているか
：有職の母親の在宅勤務状況別



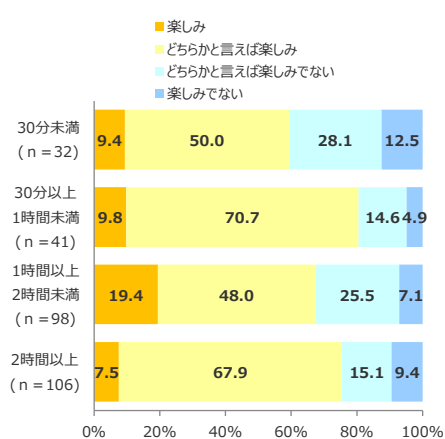
【図18.10】 将来働くことを楽しみに感じているか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



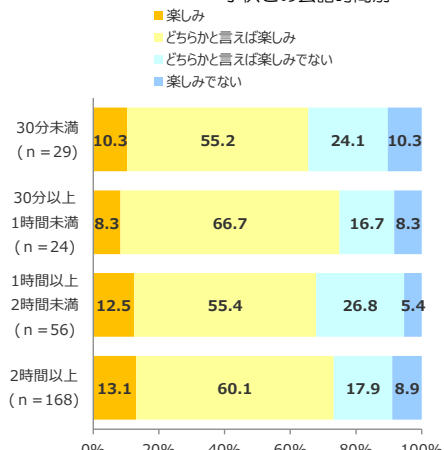
【図18.11】 将来働くことを楽しみに感じているか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別



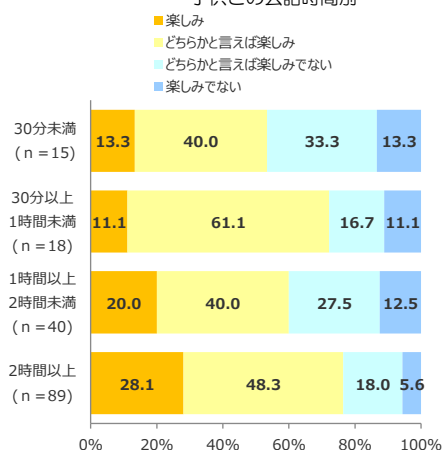
【図18.12】 将来働くことを楽しみに感じているか
：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図18.13】 将来働くことを楽しみに感じているか
：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図18.14】 将来働くことを楽しみに感じているか
：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



将来なりたい職業はあるか

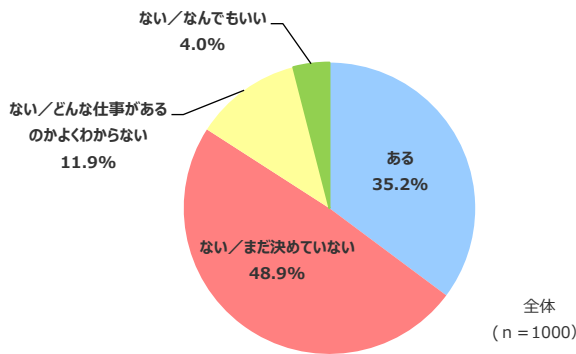
小学校5-6年生の子供に将来なりたい職業があるかを聞くと、「ある」と回答した子供は35.2%で3分の1強であった(図19.1)。2018年調査では「ある」の回答は48.6%で、今回の調査では13.4ポイント下がっている(図19.2)。

子供の性別で見ると、女子の方が「ある」と回答した割合が若干高かった(図19.3)。

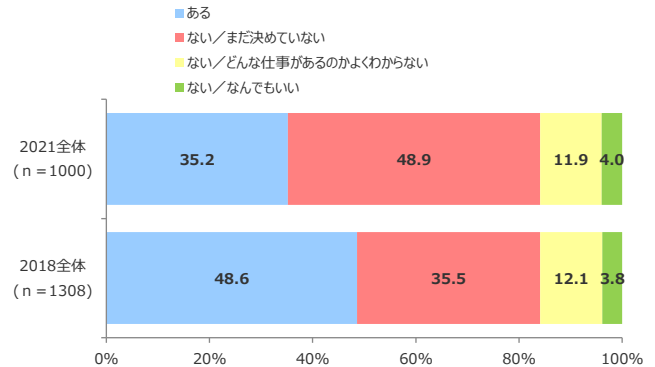
「大人調査：仕事の充実度」との関係を見ると、親の仕事が「充実している」家庭の子供は、将来なりたい職業が「ある」割合が、「充実していない」家庭の子供よりも高くなっていた(図19.4)。

「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親または母親の働く姿を「見たことがある」家庭の子供は、将来なりたい職業が「ある」と回答した割合がそれぞれ4割程度となり、「見たことがない」家庭の子供を1割前後上回っていた(図19.5、図19.6)。

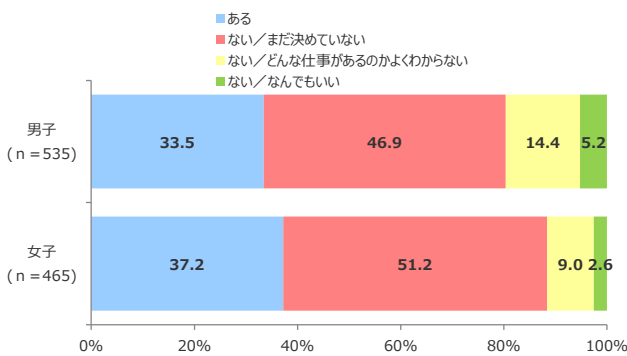
【図19.1】 将来なりたい職業はあるか



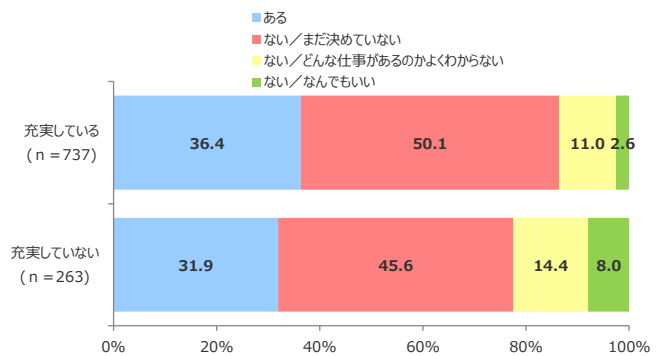
【図19.2】 将来なりたい職業はあるか：2018年調査比較



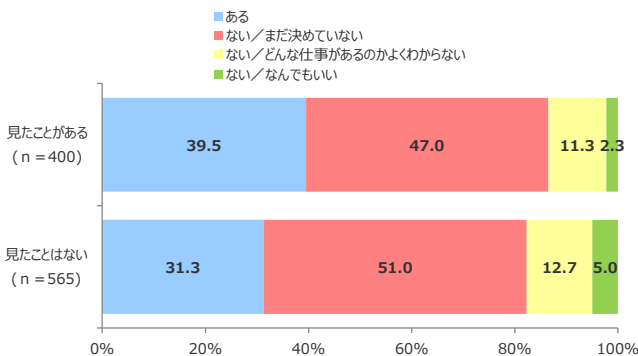
【図19.3】 将来なりたい職業はあるか：子供性別



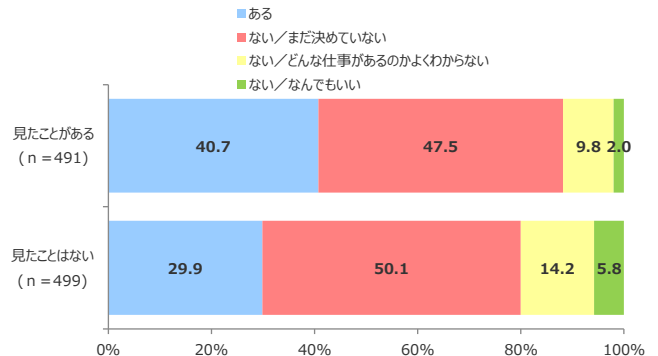
【図19.4】 将来なりたい職業はあるか：仕事の充実度別



【図19.5】 将来なりたい職業はあるか：父親の働く姿(無職者も含む)を見たことがあるか別



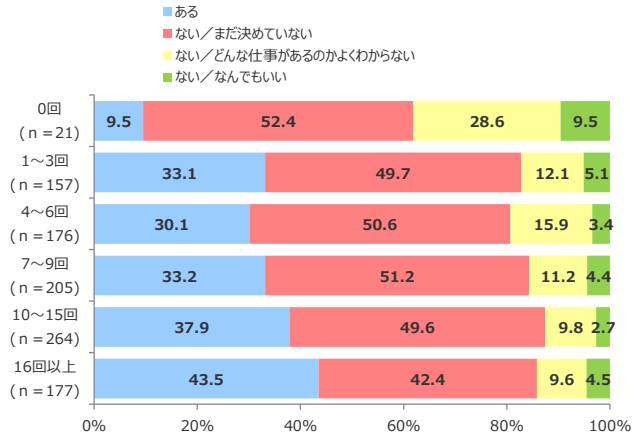
【図19.6】 将来なりたい職業はあるか：母親の働く姿(無職者も含む)を見たことがあるか別



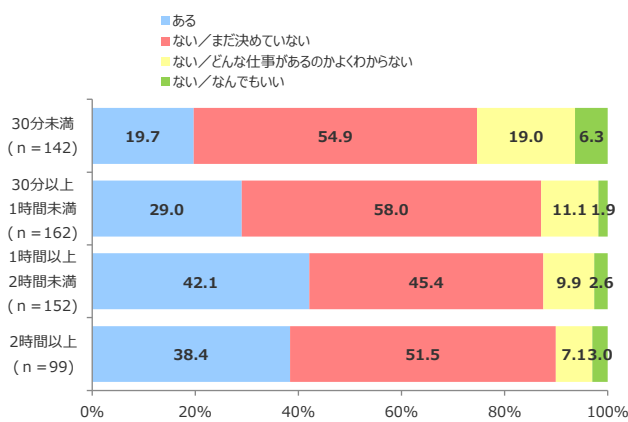
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が「16回以上」の場合に、将来なりたい職業が「ある」の割合が43.5%と最も高くなる。また、食事回数が多くなるほど、「ある」の割合も概ね高まっていた（図19.7）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、男性有職者においては、労働日の会話時間が「2時間以上」の場合を除き、労働日、休日とも子供との会話時間が長い男性の子供ほど、将来なりたい職業が「ある」子供の割合が高くなる（図19.8、図19.9）。女性有職者においても、男性有職者と同様の傾向であった（図19.10、図19.11）。また、女性無職者の子供においても、会話時間が長くなるにつれ、将来なりたい職業が「ある」割合が概ね高くなっていった（図19.12）。

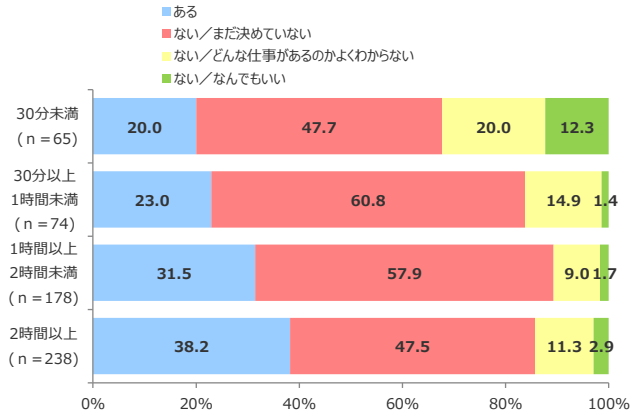
【図19.7】 将来なりたい職業はあるか：家族揃っての食事回数別



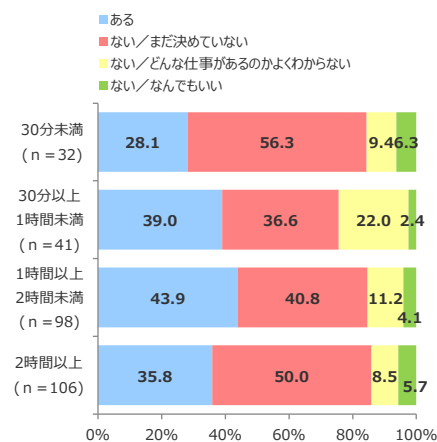
【図19.8】 将来なりたい職業はあるか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



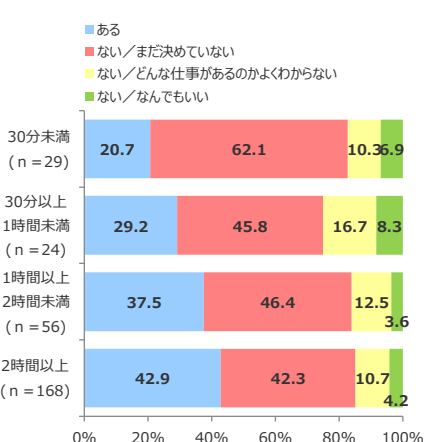
【図19.9】 将来なりたい職業はあるか：男性有職者の休日の子供との会話時間別



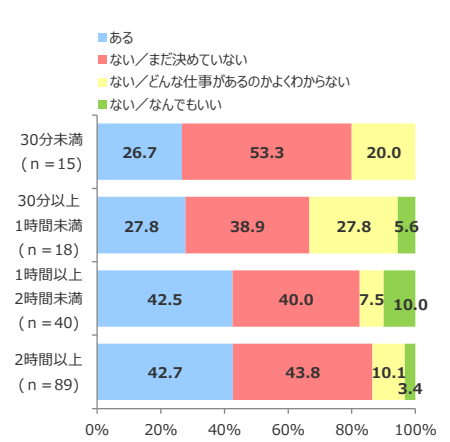
【図19.10】 将来なりたい職業はあるか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図19.11】 将来なりたい職業はあるか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図19.12】 将来なりたい職業はあるか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別

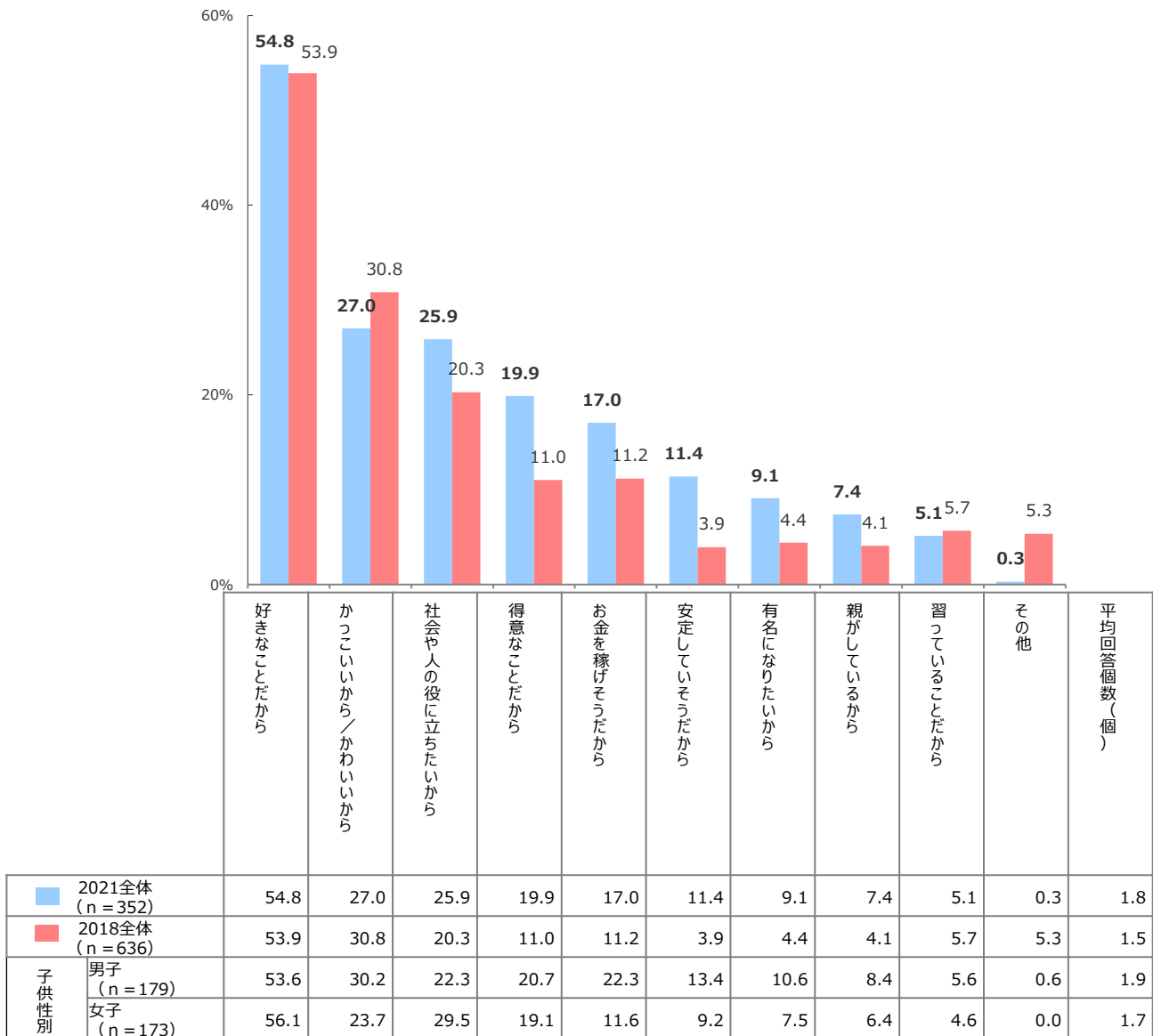


将来その職業になりたい理由

「子供調査：将来の夢はあるか」において、なりたい職業が「ある」と回答した小学校5-6年生の子供に、なぜその職業に就きたいのか理由を聞くと、1位「好きなことだから」54.8%、2位「かっこいいから/かわいいから」27.0%、3位「社会や人の役に立ちたいから」25.9%だった。上位3項目の順位は、前回2018年調査の結果と同様だった。

子供の性別で見ると、男子は「お金を稼げそうだから」が22.3%と女子よりも10.7ポイント高い。また、「かっこいいから/かわいいから」が30.2%と女子よりも6.5ポイント高くなっている。一方、女子は「社会や人の役に立ちたいから」が29.5%と男子よりも7.2ポイント高くなっており、性別によって職業へのモチベーションも異なっているようだ（図20）。

【図20】 その職業に将来なりたいと思う理由



将来なりたい職業に就くための努力

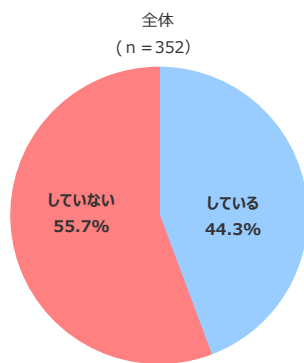
「子供調査：将来の夢はあるか」において、将来なりたい職業が「ある」と回答した小学校5-6年生の子供に、将来なりたい職業に就くために何か工夫や努力をしているかを聞くと、44.3%の子供が「している」と回答した（図21.1）。前回2018年調査では「している」の回答は43.1%で、ほとんど差はなかった（図21.2）。

子供の性別で見ると、工夫や努力を「している」は男子で46.9%、女子で41.6%となり、男子の方が5.3ポイント割合が高くなっていた（図21.3）。

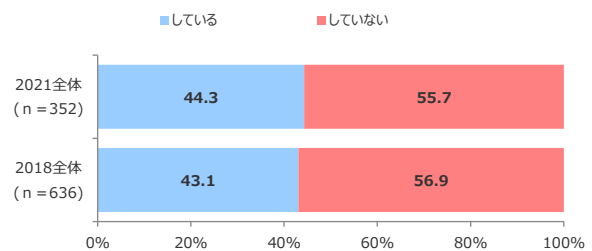
父母の就労状況別にみると、無職の父親、母親の子供の方が工夫や努力を「している」割合が、有職の父親、母親の子供より高かった（図21.4）。

在宅勤務状況別にみると、男性有職者の子供では20.5ポイント、女性有職者の子供では10.0ポイント、それぞれ「在宅勤務なし」の子供より「在宅勤務あり」の子供の方が、工夫や努力を「している」と回答した割合が高くなっている（図21.5、図21.6）。

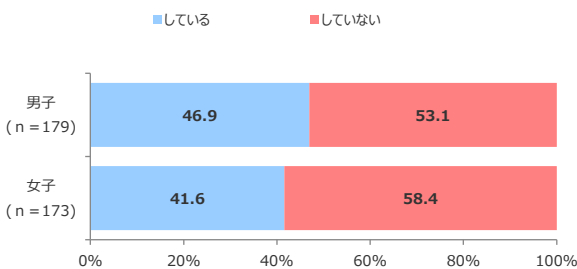
【図21.1】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか



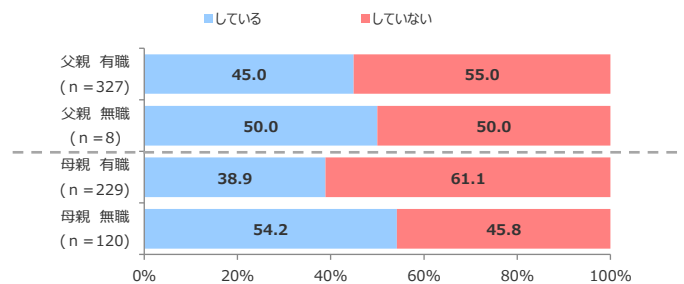
【図21.2】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：2018年調査比較



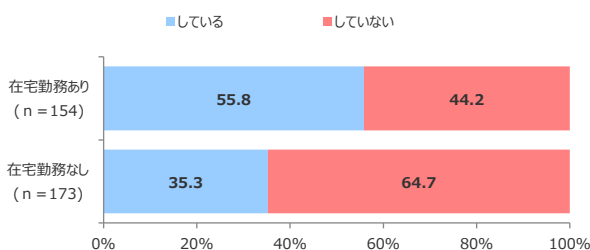
【図21.3】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：子供性別



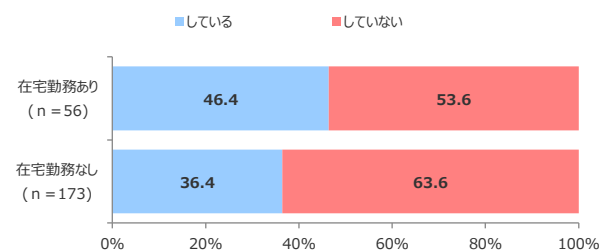
【図21.4】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：父母の就労状況別



【図21.5】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：有職の父親の在宅勤務状況別

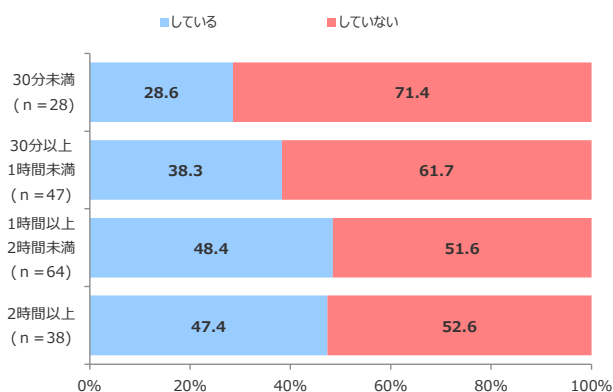


【図21.6】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：有職の母親の在宅勤務状況別

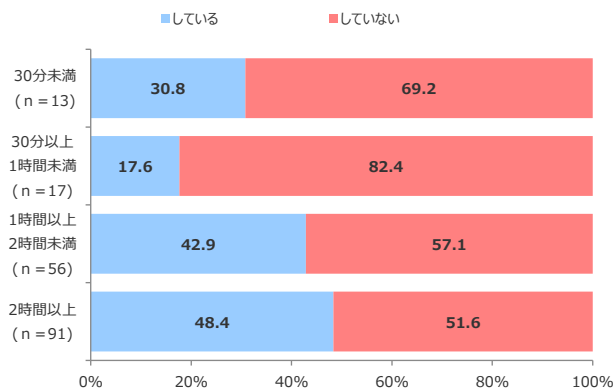


「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、男性有職者では、労働日と休日ともに子供との会話時間が「1時間以上」になると、将来なりたい職業に就くために工夫や努力を「している」子供の割合が半数近くと高くなる（図21.7、図21.8）。女性の場合は、就労状況や会話時間による傾向はあまりみられなかった（図21.9、図21.10、図21.11）。

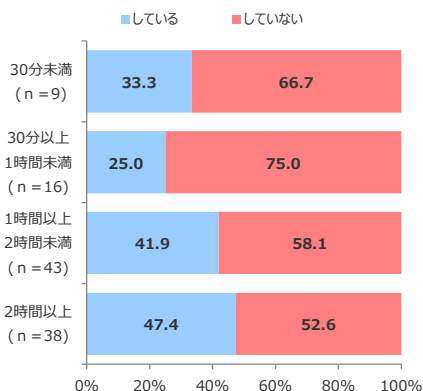
【図21.7】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



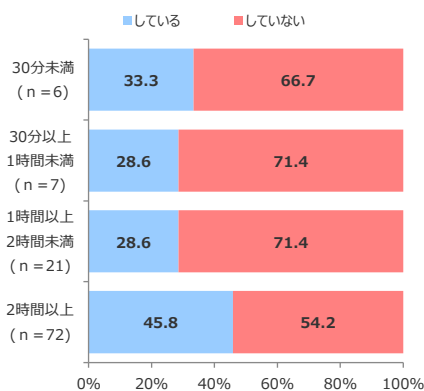
【図21.8】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別



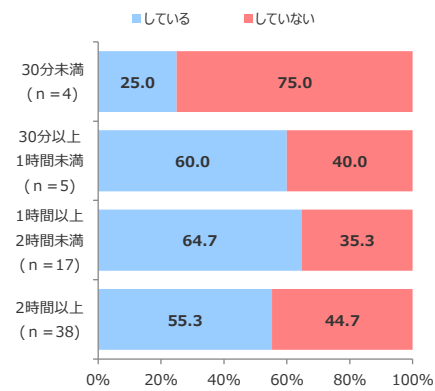
【図21.9】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図21.10】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図21.11】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか
：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



【自由回答】 () 内は性別

- アイドルになるために好きな芸能人のyoutubeやテレビを見る。(女子)
- 本を読んだり、オモチャやアプリ、ゲームでプログラミングに取り組んでいる。(男子)
- サッカー選手になりたいので、クラブチームで頑張っている。(男子)
- イラストレーターになりたいので、絵を描く練習をしている。(女子)
- 警察官になるために、空手やキックボクシングの習い事をして身体を鍛えている。(男子)
- 理系に進みたいので、苦手な算数の勉強を頑張っている。(女子)
- 母親と一緒に料理を手伝いながら作っている。(女子)
- イラストや、漫画の模写をしている。(女子)
- 大学に行くため、勉強を頑張っている。(女子)

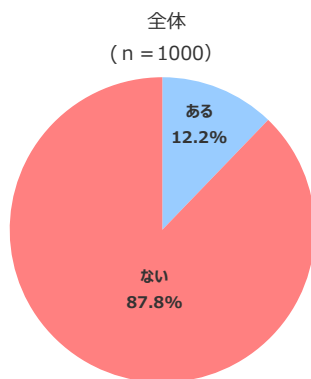
家庭で行なっているキャリア教育

小学校5-6年生の子供がいる男女に、キャリア教育として家庭で意識して行なっていることはあるかを聞いた。「ある」は12.2%で、9割弱の家庭では特に何も行なっていなかった（図22.1）。前回2018年調査では「ある」の回答は10.3%で、今回の調査では1.9ポイント上がっていた（図22.2）。

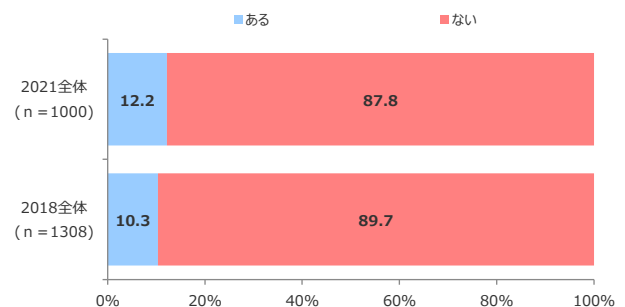
大人の性別で見ると、母親の立場である女性の方が「ある」の割合がやや高い（図22.3）。

「子供調査：将来なりたい職業はあるか」との関係を見ると、将来なりたい職業が「ある」と回答した子供の家庭では、親がキャリア教育を意識して行なっていることが「ある」と回答した割合が18.5%と、将来なりたい職業が「ない」と回答した子供の家庭よりも9.7ポイント高くなっていた（図22.4）。

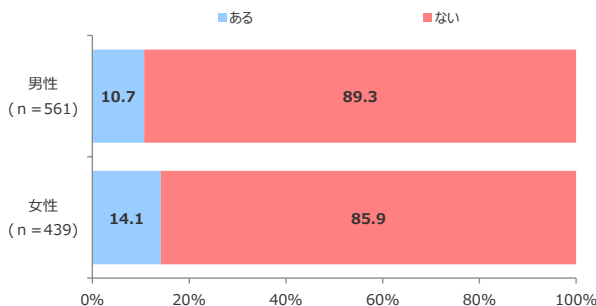
【図22.1】キャリア教育として、家庭で意識して行なっていることはあるか



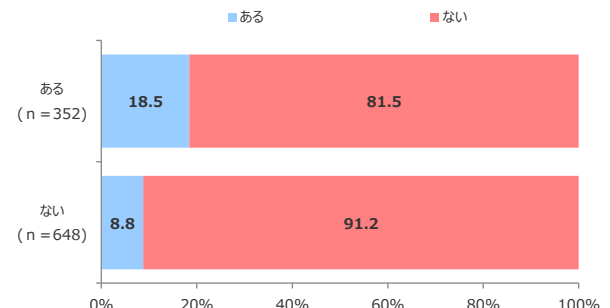
【図22.2】キャリア教育として、家庭で意識して行なっていることはあるか：2018年調査比較



【図22.3】キャリア教育として、家庭で意識して行なっていることはあるか：大人性別



【図22.4】キャリア教育として、家庭で意識して行なっていることはあるか：将来なりたい職業はあるか別



【自由回答】

- 子供の興味のある仕事について話し、どのような仕事の種類があるか、そのためには今何をしたらよいか、視野を広げるように話をしている。
- 夫婦で、仕事の良い話も嫌な話も、子供の前で話をしている。テレビで自分たちの仕事に関するニュースなどがあると細かく説明する。本人の興味のある仕事も説明できる範囲で説明している。
- 家の手伝いの担当を与え、毎日実施させることで役割を持たせている。
- 論理的思考を付けてほしいため、ロボット教室に通わせている。
- 時間などの約束を守るようなことを、意識して行っています。
- お金を稼ぐことはどう言うことかを話している。売っている物の原価や人件費等についても話している。
- 仕事の内容によって休日や給料が変わることなど。なりたいものが見つかった時のために今勉強することがどこかで役に立つという話はしている。
- おしごと体験のようなイベントがある時には、参加する。

親の働く姿を見せることの是非

小学校5-6年生の子供がいる男女に、子供に親の働く姿（※1）を見せることは良いことだと思うかを聞いた。

子供に、父親の働く姿を見せることについて「良いことだと思う」が49.7%、「どちらかと言えば良いことだと思う」が45.6%で合わせて95.3%が肯定的に捉えていた（図23.1）。

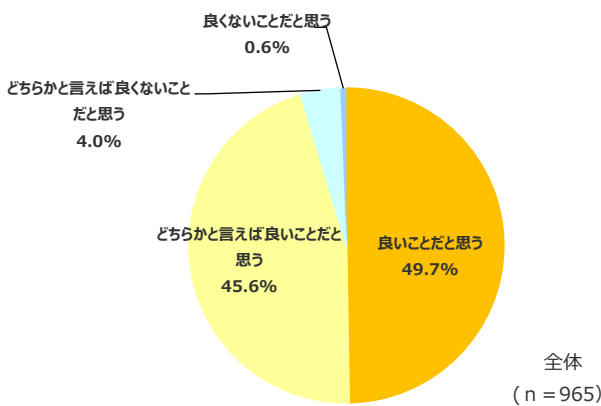
子供に母親の働く姿を見せることについては、「良いことだと思う」49.4%、「どちらかと言えば良いことだと思う」46.7%で、肯定的な意見が計96.1%に上った（図23.2）。

父親、母親の働く姿を見せることについて、前回2018年調査と比較しても、肯定割合にほとんど変化はない（図23.3、図23.4）。

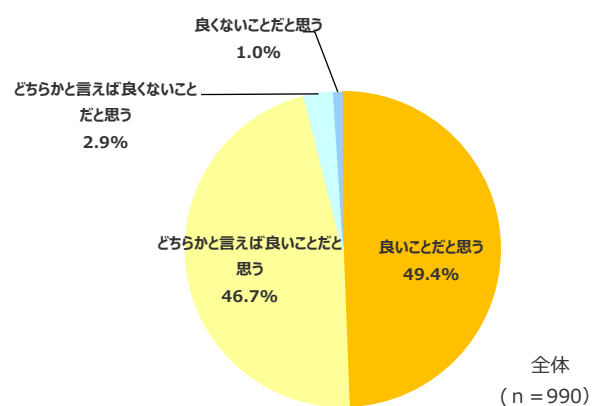
大人の性別でみると、父親の働く姿にしても母親の働く姿にしても、男性より女性の方が「良いことだと思う」の回答割合が高くなっていった（図23.5、図23.6）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

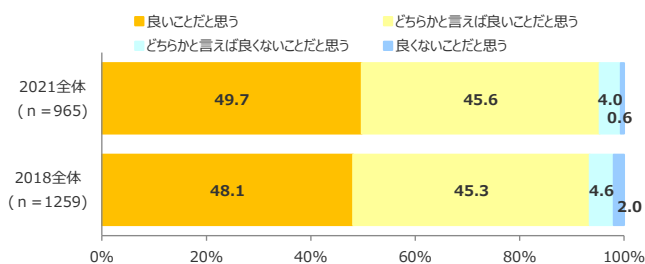
【図23.1】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



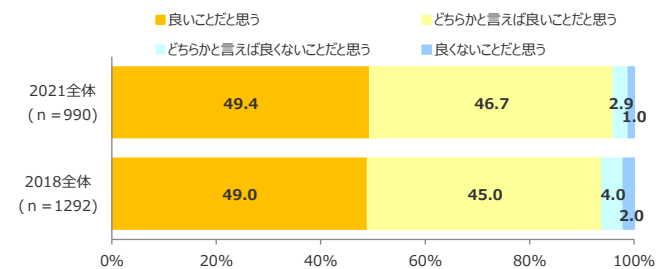
【図23.2】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



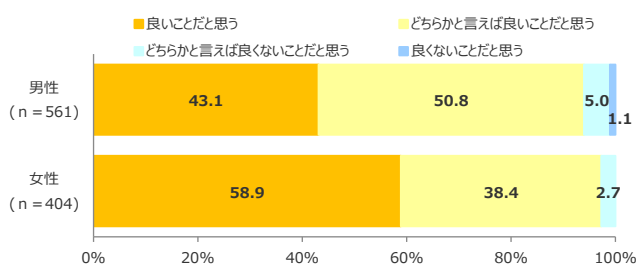
【図23.3】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：2018年調査比較



【図23.4】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：2018年調査比較



【図23.5】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別



【図23.6】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別

